

三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会

第5回 会議資料

三豊市役所危機管理セク-3階災害対策本部室
令和3年11月22日(月)午後2時00分から



会議資料

【目 次】

議題 5－1	アンケート調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
議題 5－2	具体的な取り組み方について 三豊市の学校適正規模適正配置の考え方（素案）・・・・・・・・ 1 6
参考資料	将来推計からの児童・学級数（小学校）・・・・・・・・ 1 8 再編整備計画に基づく小学校別学校規模（R 1 5）・・・・・・・・ 1 9 将来推計からの生徒・学級数（中学校）・・・・・・・・ 2 0 中学校別学校規模分布図（R 1 5）・・・・・・・・ 2 1 三豊市立学校施設の状況など（長寿命化計画より）・・・・・・・・ 2 2 三豊市内学校施設一覧（小・中学校）・・・・・・・・ 2 6 三豊市立学校施設一覧（小・中学校平面図）・・・・・・・・ 2 8

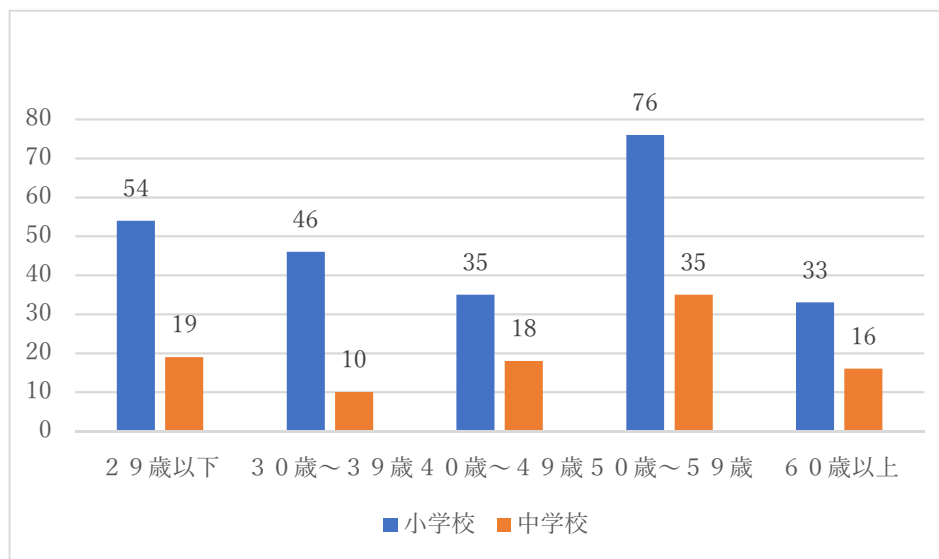
《三豊市立学校適正規模・適正配置検討に関するアンケート調査結果報告》

三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会での検討資料とするため、県費・市費の小学校・中学校に勤務する教員を対象としてアンケートを実施しました。

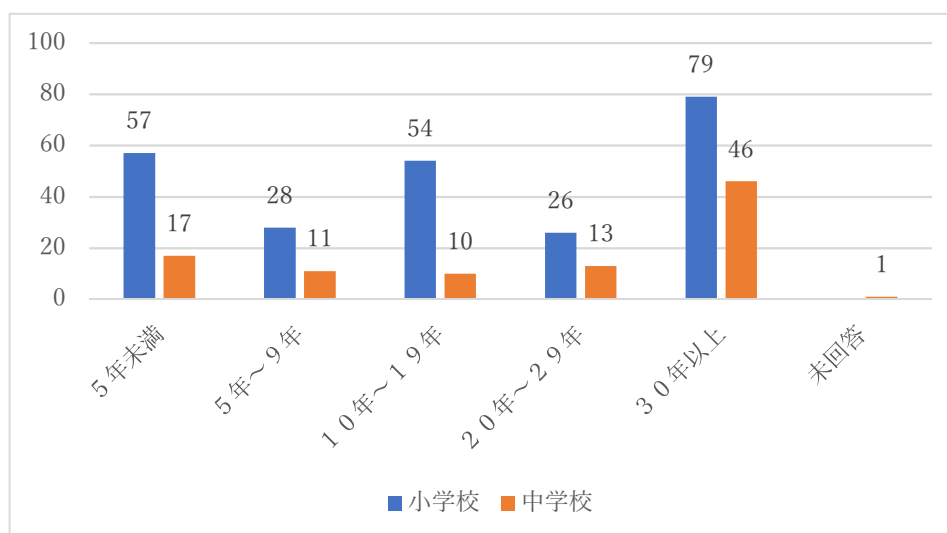
調査対象者・調査方法等

対象者	三豊市立小学校・中学校に勤務する教員（県費・市費）
アンケート期間	令和３年１０月２２日から令和３年１１月２日
アンケート方法	ＬＯＧＯフォーム（ネット）による回答
回答人数 (回答率)	小学校 244人（84.7％） 中学校 98人（74.8％）

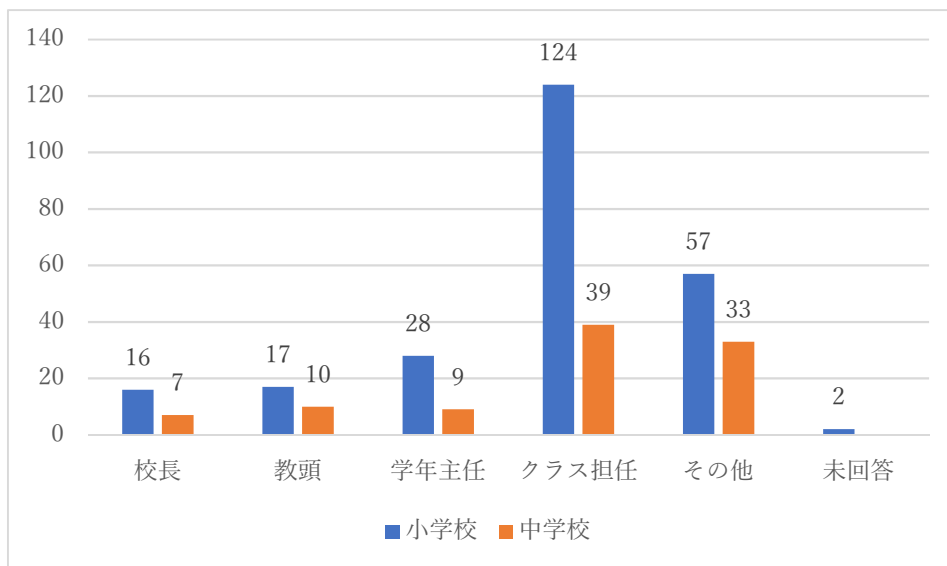
Ｑ１ 年齢区分について



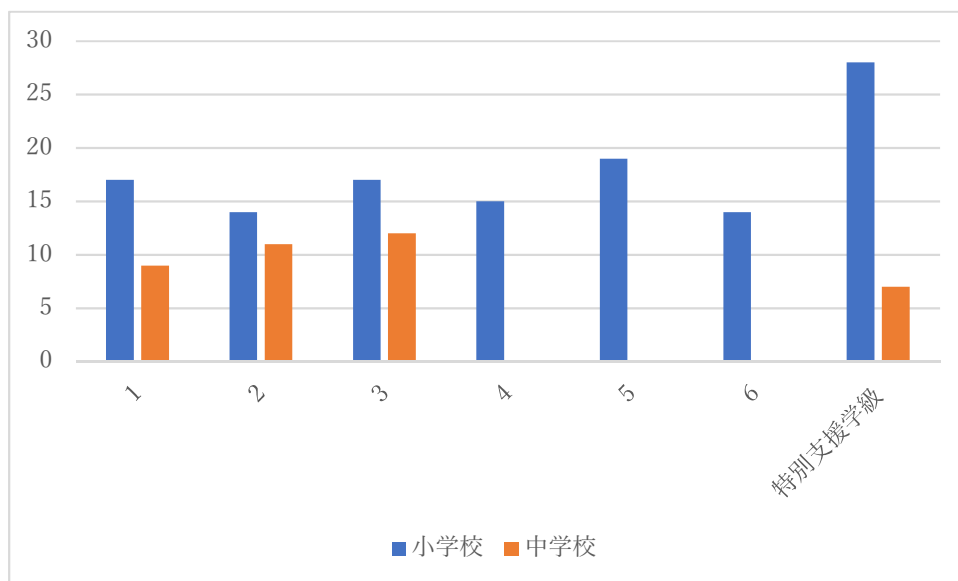
Ｑ２ 教職経験年数について



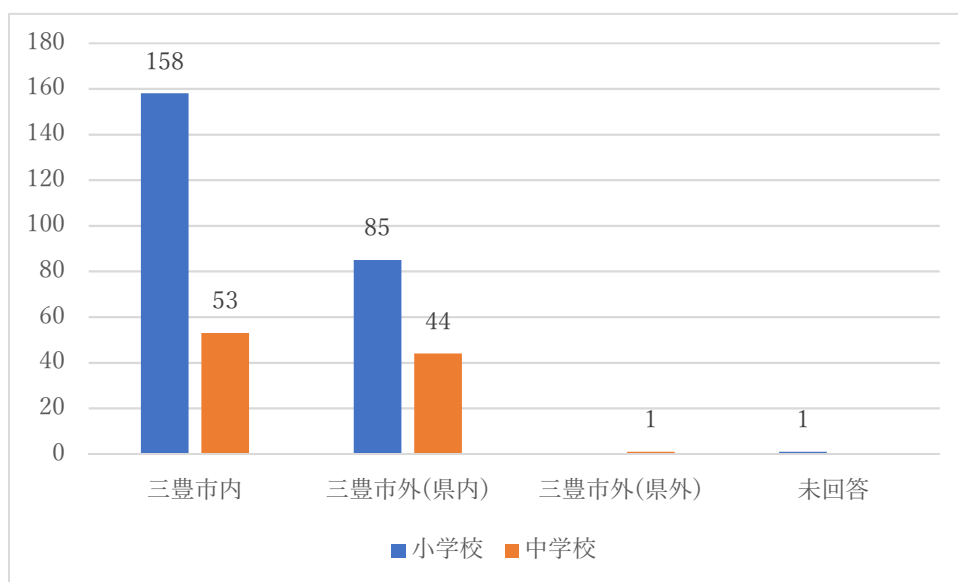
Q 3 役職について



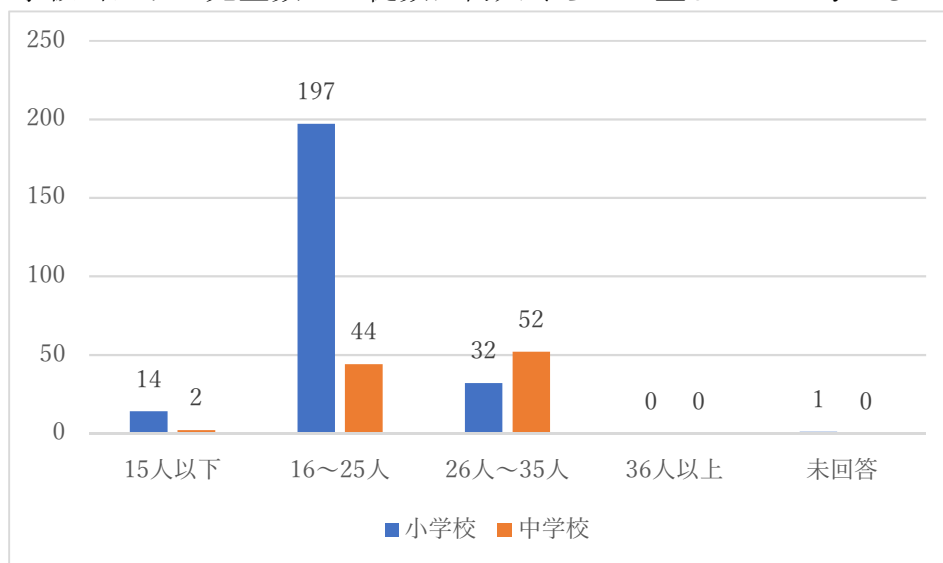
Q 4 何年生の担当ですか（クラス担任）



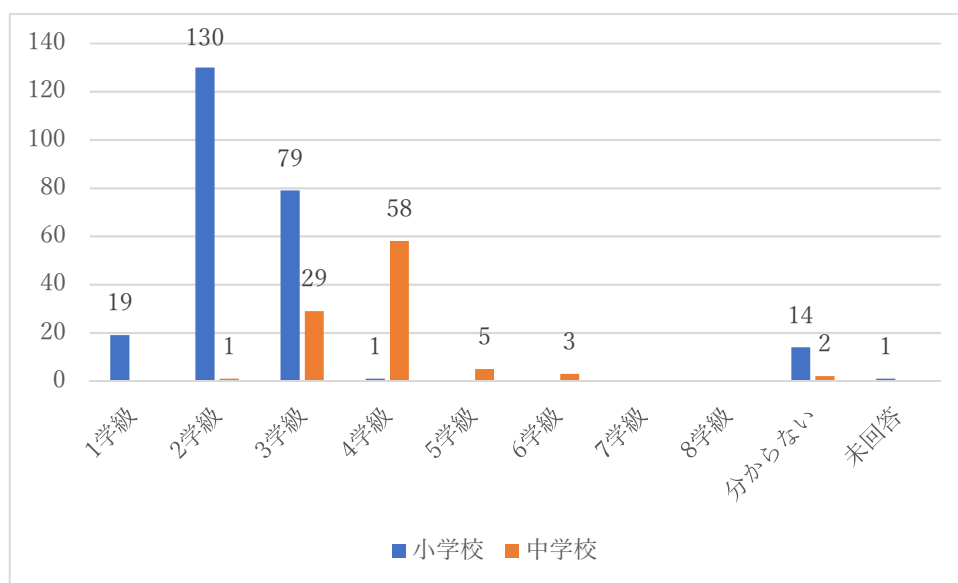
Q 5 住まいについて



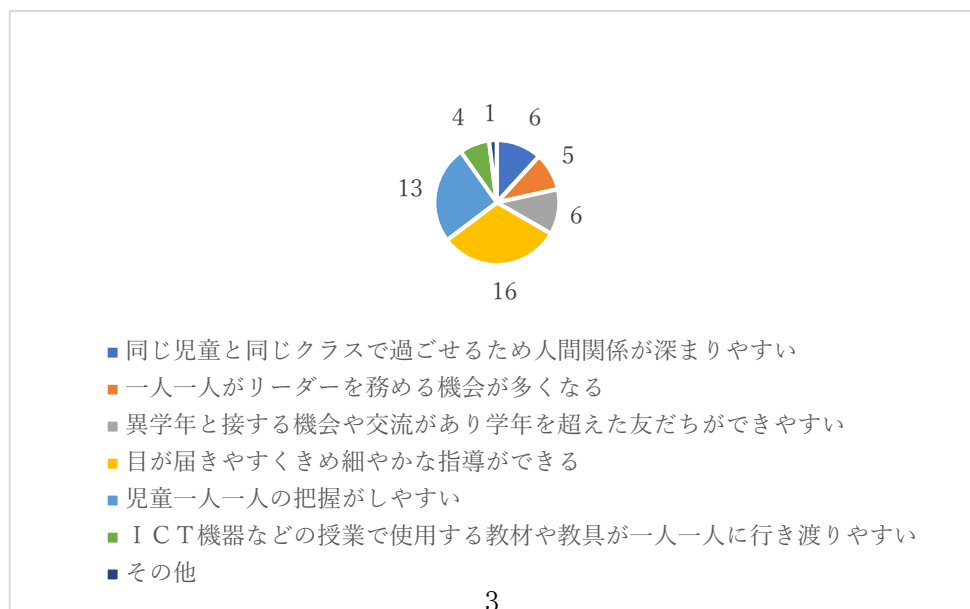
Q 6 1 学級当たりの児童数・生徒数は何人くらいが望ましいと考えるか



Q 7 1 学年当たりの学級数はどの程度が望ましいと考えるか

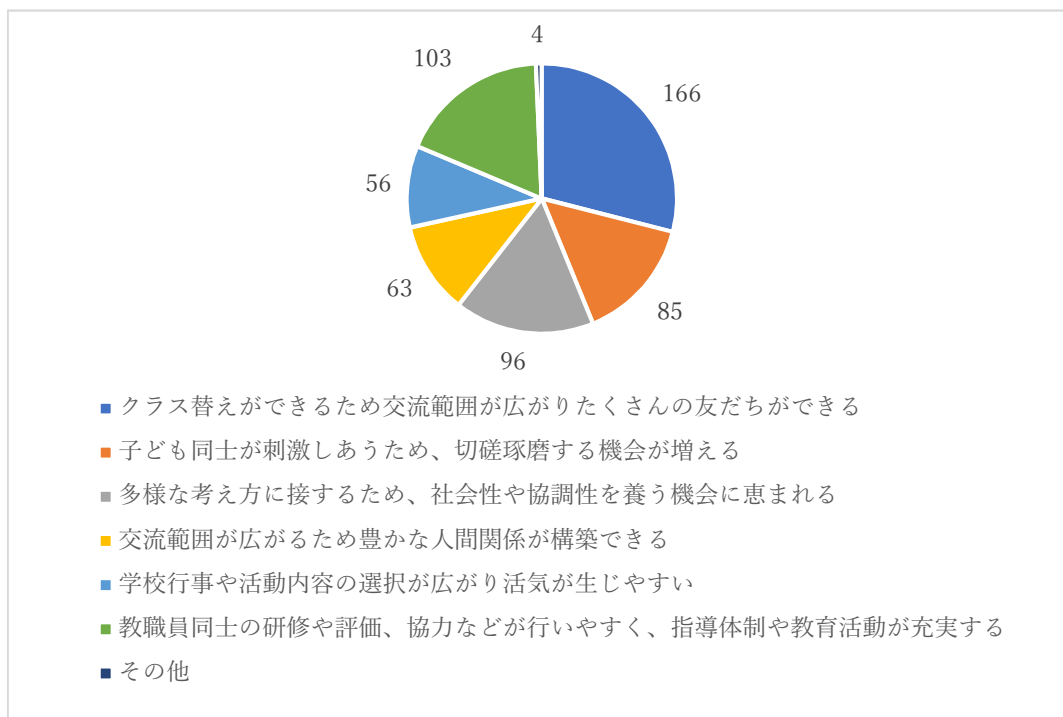


Q 8 1) 小学校 そう考える理由 (1 学級と回答)



その他：学級が2学級あると、混ぜるな危険がずっと混ざらないように考えてクラス分けしないといけないが、その状況ですらいつか一クラスになったとき大変さが増すから。またクラスが違くとノートを見せ合いされることもあり、統一した学習が難しそう。

2) そう考える理由（2学級・3学級と回答）

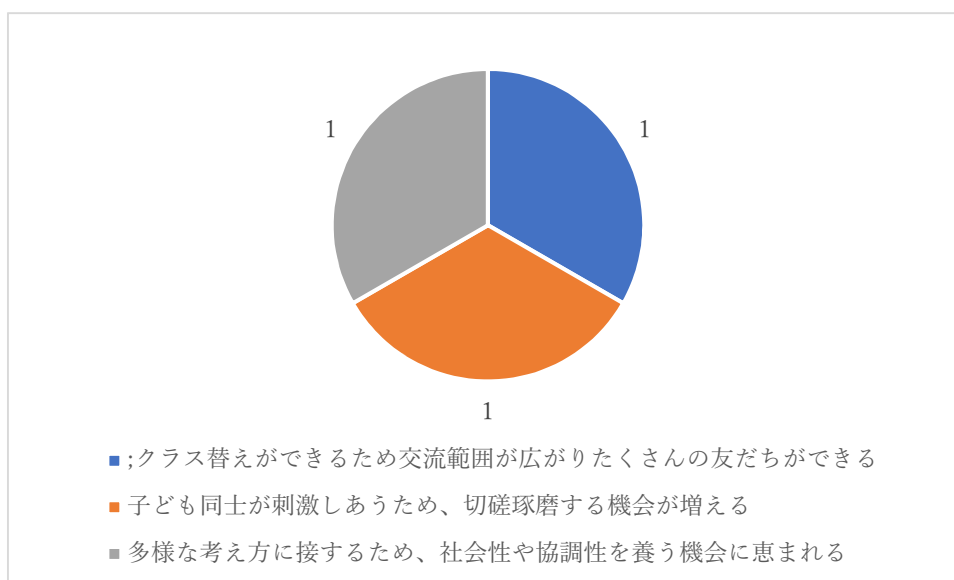


その他：児童間、保護者間で問題が起こったとき、クラス替えで対応できる。
人間関係で難しい児童を分けることができる。

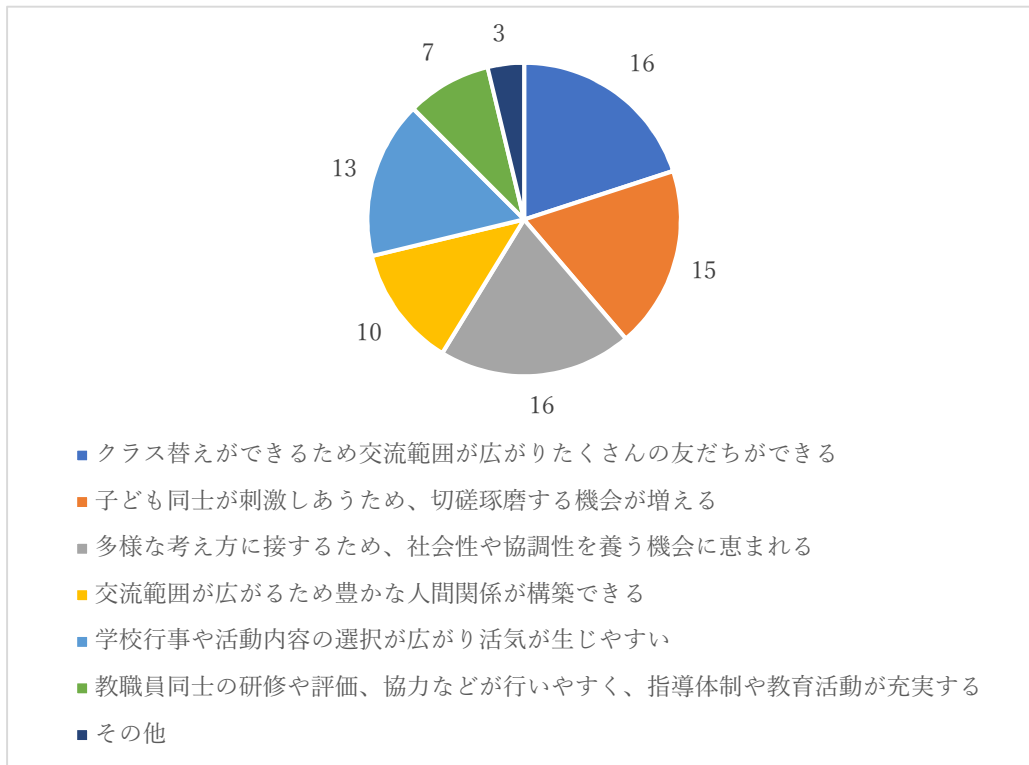
小学校は地域の拠点的な意味合いが強い。大きな学校規模より地域のあった規模が良いと考える。

児童の授業中の活躍の場が増えるから。また、児童1人1人を把握しやすいから。

3) そう考える理由（4学級・5学級と回答）



4) 中学校 そう考える理由（2 学級・3 学級と回答）

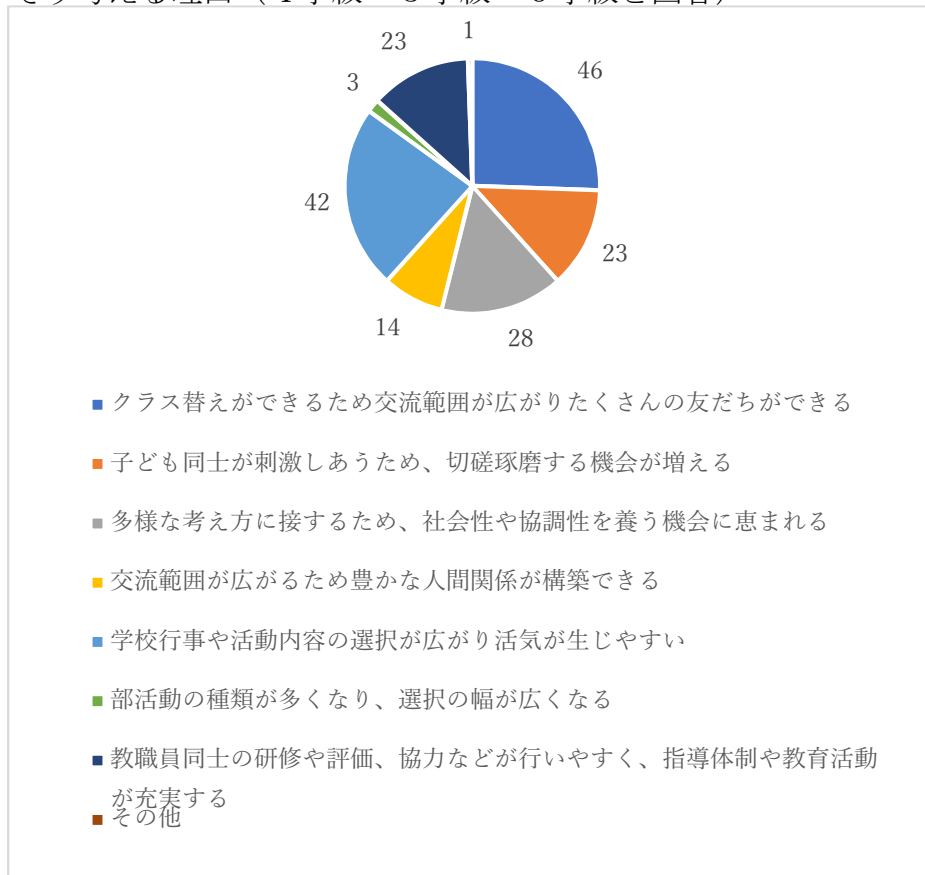


その他：生徒間の人間関係に課題を抱える生徒が増加傾向にあり、クラス分けが柔軟に対応できる。

生徒管理がしやすい。

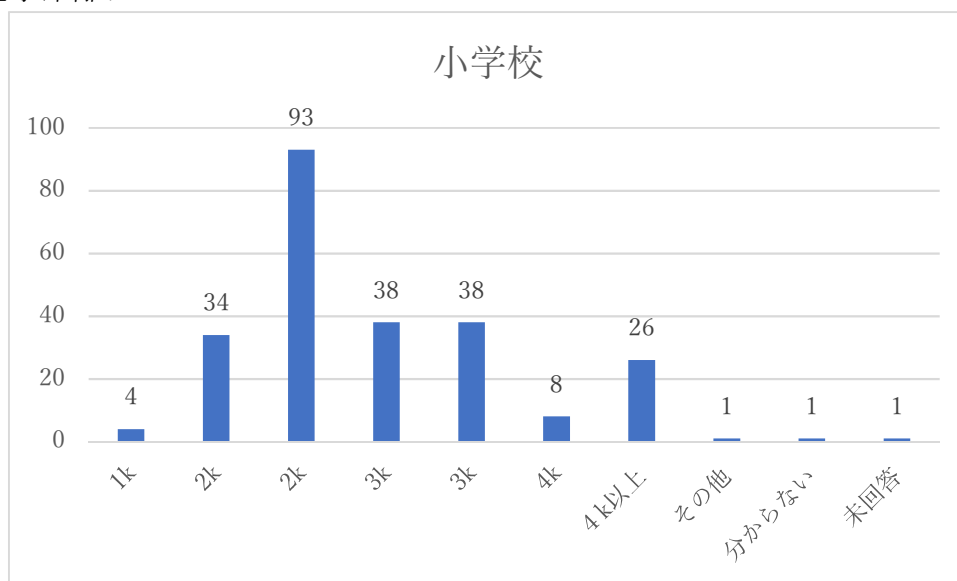
一学年を通して教科担当ができるから。4 クラスになるとちょっとしんどく感じます。

5) そう考える理由（4 学級・5 学級・6 学級と回答）

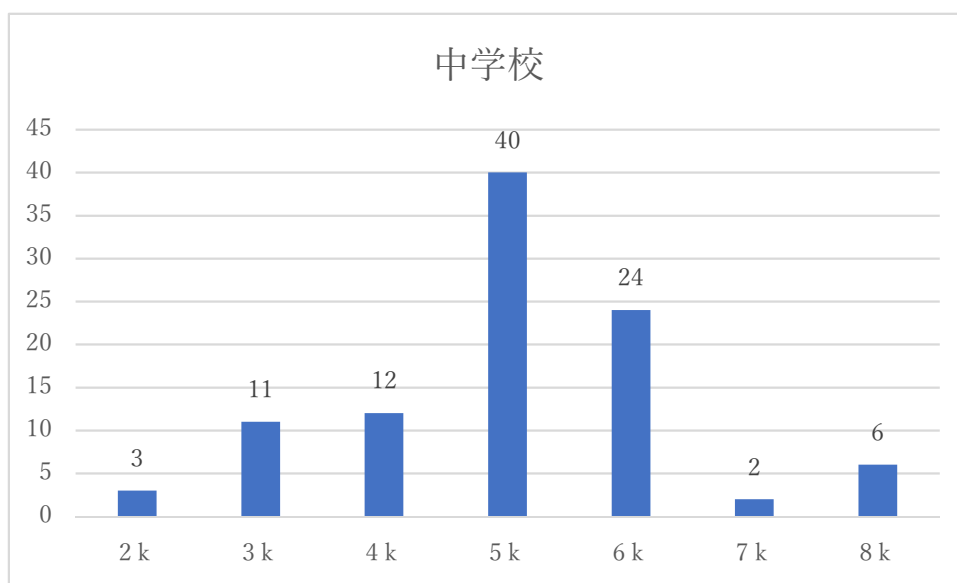


その他：生徒の学力向上につながる学習指導ができる。

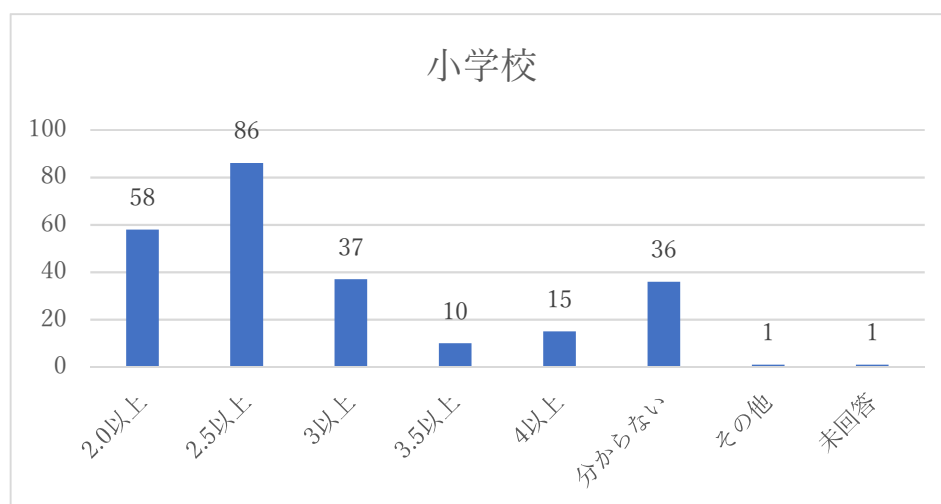
Q 9 通学距離は

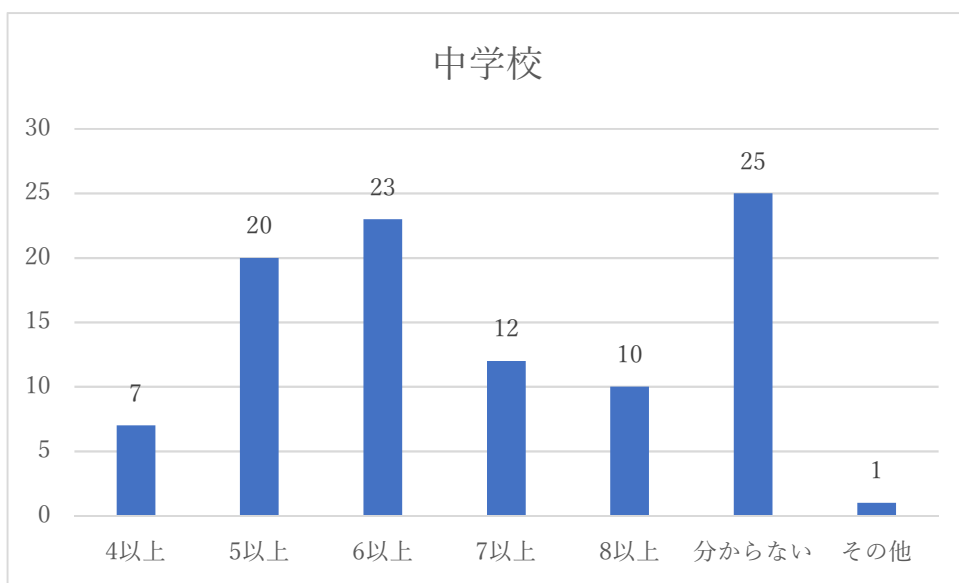


その他：必要とされる学校なら通勤距離は関係ない



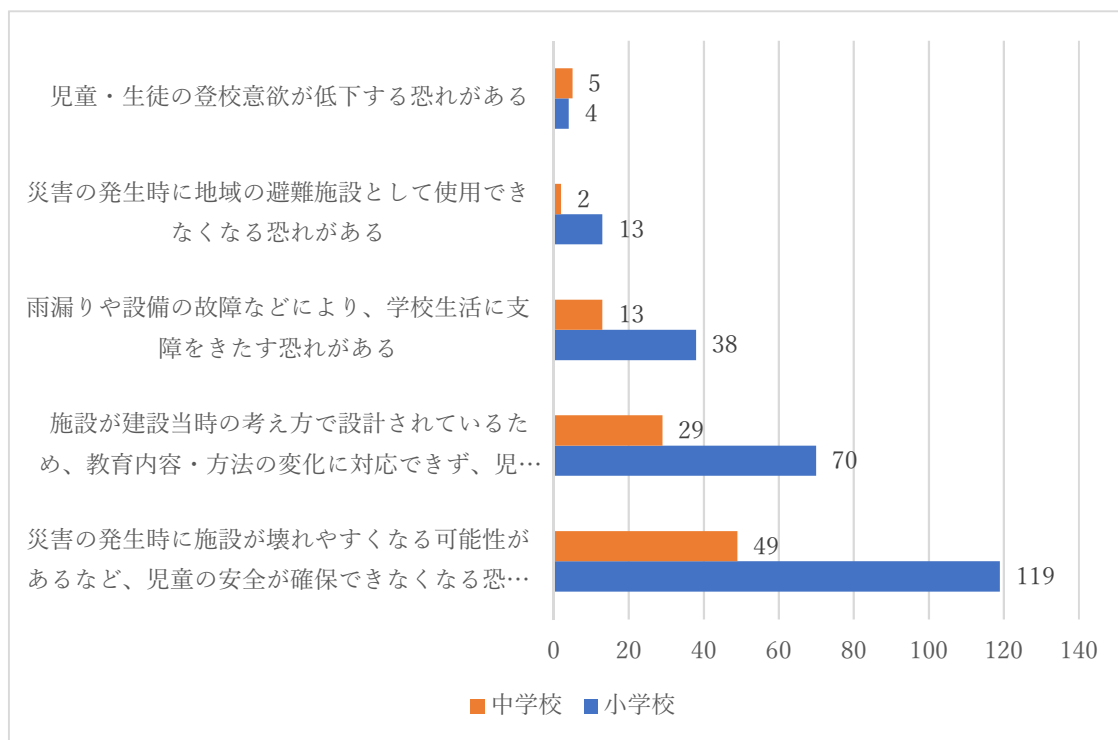
Q 1 0 スクールバスの運行支援はどの程度までが適正な距離と考えるか





その他：10k以上

Q 1 1 学校の老朽化によって発生する問題のうち考えの近いもの



Q 1 2 過少規模校や小規模校の対策としてどれが適当と考えるか



その他：各校の活動は独自に継続しつつ、統合に向けて取り組む。

複式学級では通常の授業ができず、児童に無理が生じるため、複式学級にしてはいけない。

遠隔授業では学習についていけない児童が大半となり、遠隔授業では学校教育、人間教育はできない。

歩いて登下校できる学校は重要であり、地域のコミュニティとしても必要不可欠である。

小学校のない地域はやがて衰退していく。

島の学校と同様に、少人数でもできる限り存続させるほうがよい。

大きな学校では目が行き届かないため埋もれていく児童が多い。

大きな学校は大変だからといって加配や支援員をたくさん配置したり、少人数指導をしたりするのであれば、もともと少人数の小規模校を残しておくほうがよい。

少人数のよさを生かした教育ができる。

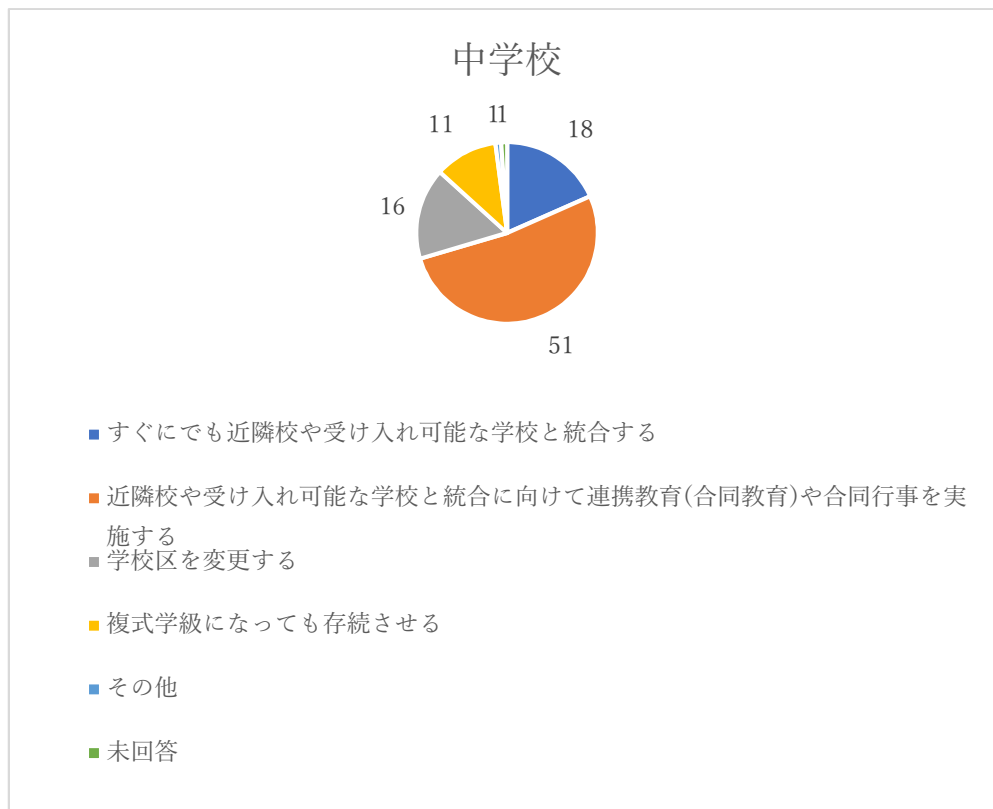
先生がもつ仕事量を軽減させる方法がどれにあたるかわかりませんが、負担が減る方法に一番近いのが適当だと考えます
わかりません。

その地域の人の声などが大事だと思うので分からない

地域の考えも尊重できたらいい。

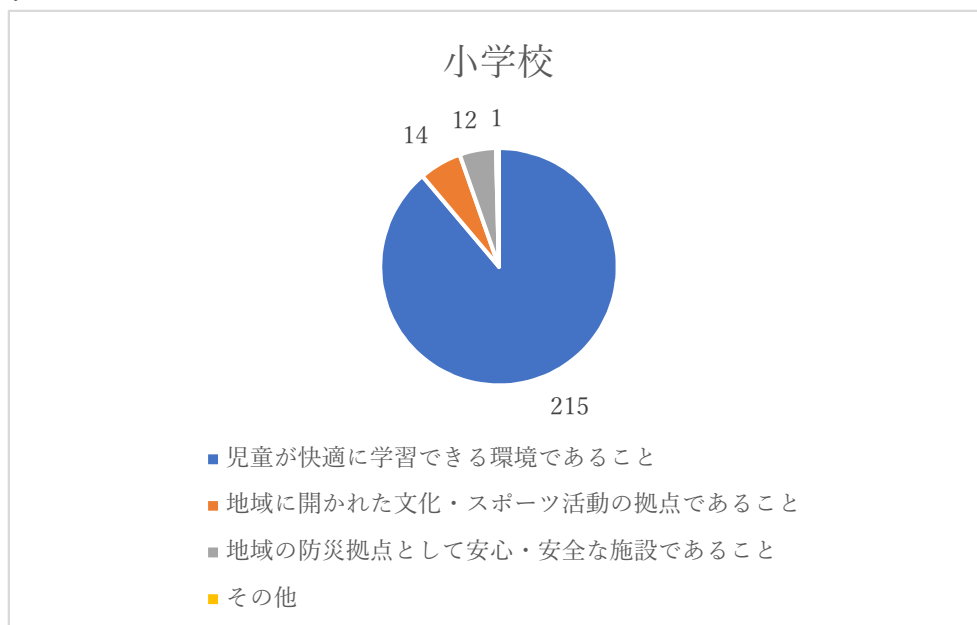
地域の関心が高い学校がなくなるのは、地域の教育力を低下させる。

地域の状況や住民の方の要望等に基づいて、十分協議する。

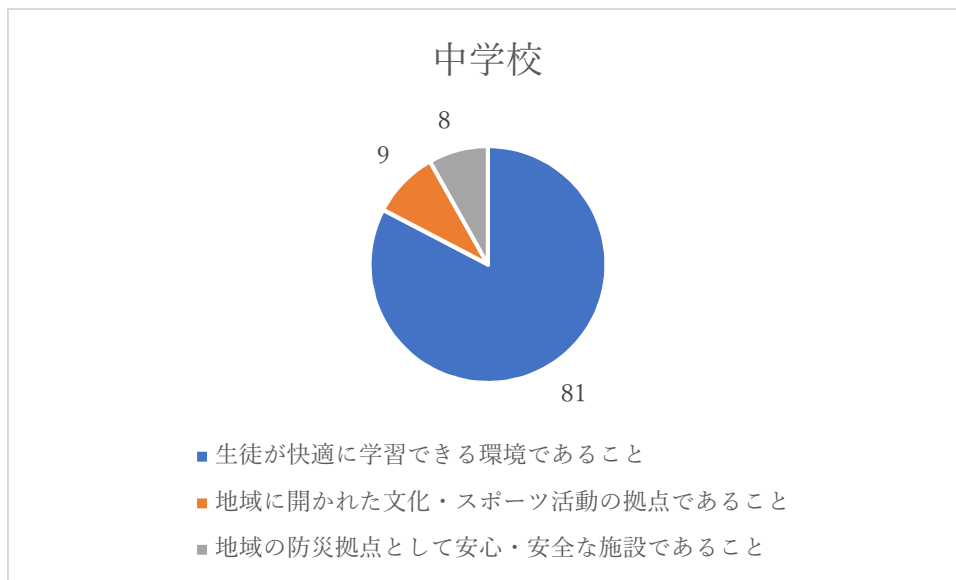


その他：小中併設校にする。

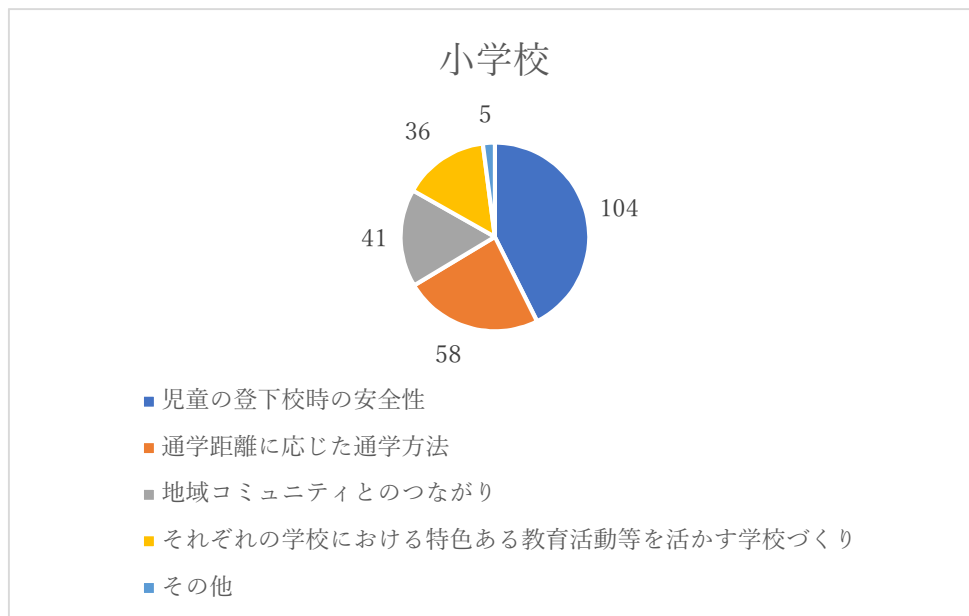
Q 1 3 学校を統合することを想定した場合、学校にはどのような機能が必要だと考えるか



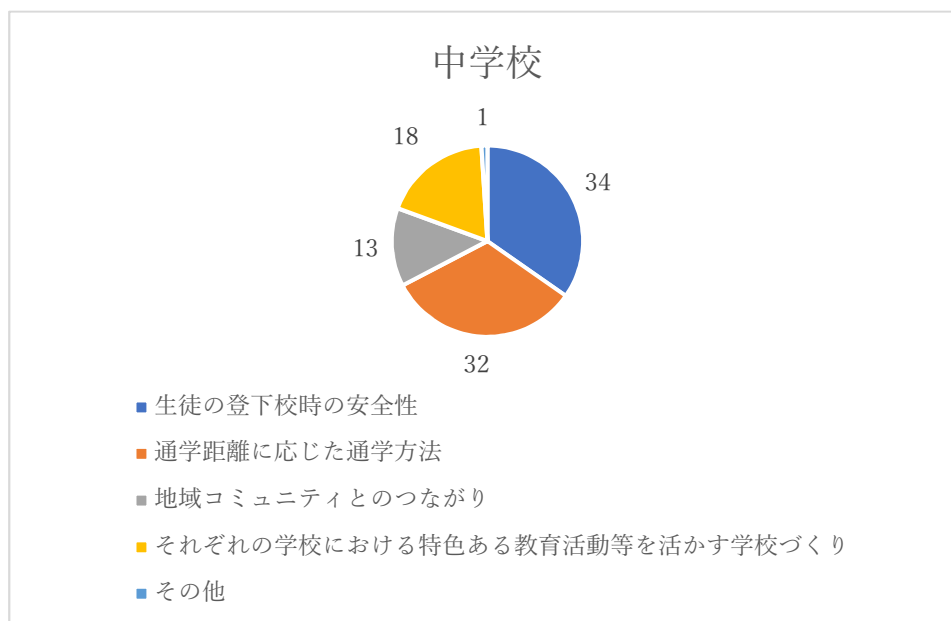
その他：難しいです。(考えるべきことが多いと思います。)



Q 1 4 学校を統合することを想定した場合、どのようなことに配慮して統合すべきだと考えるか

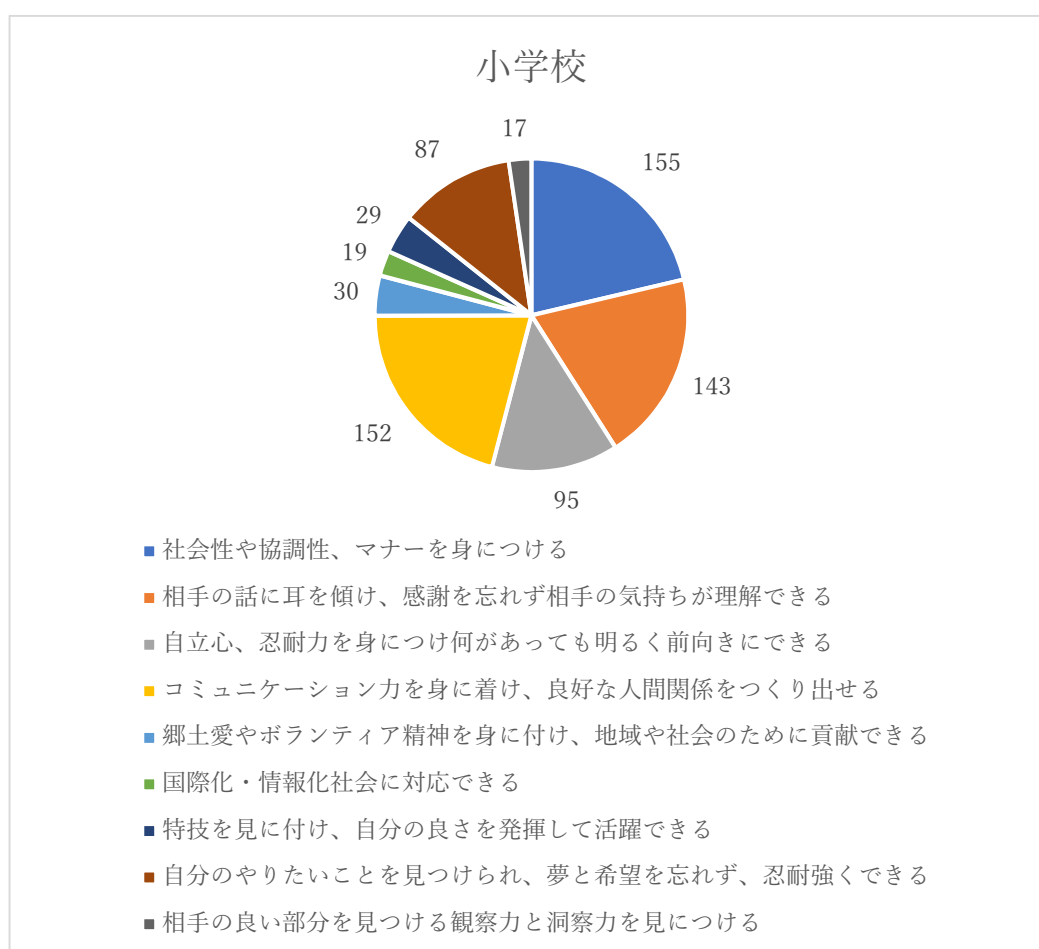


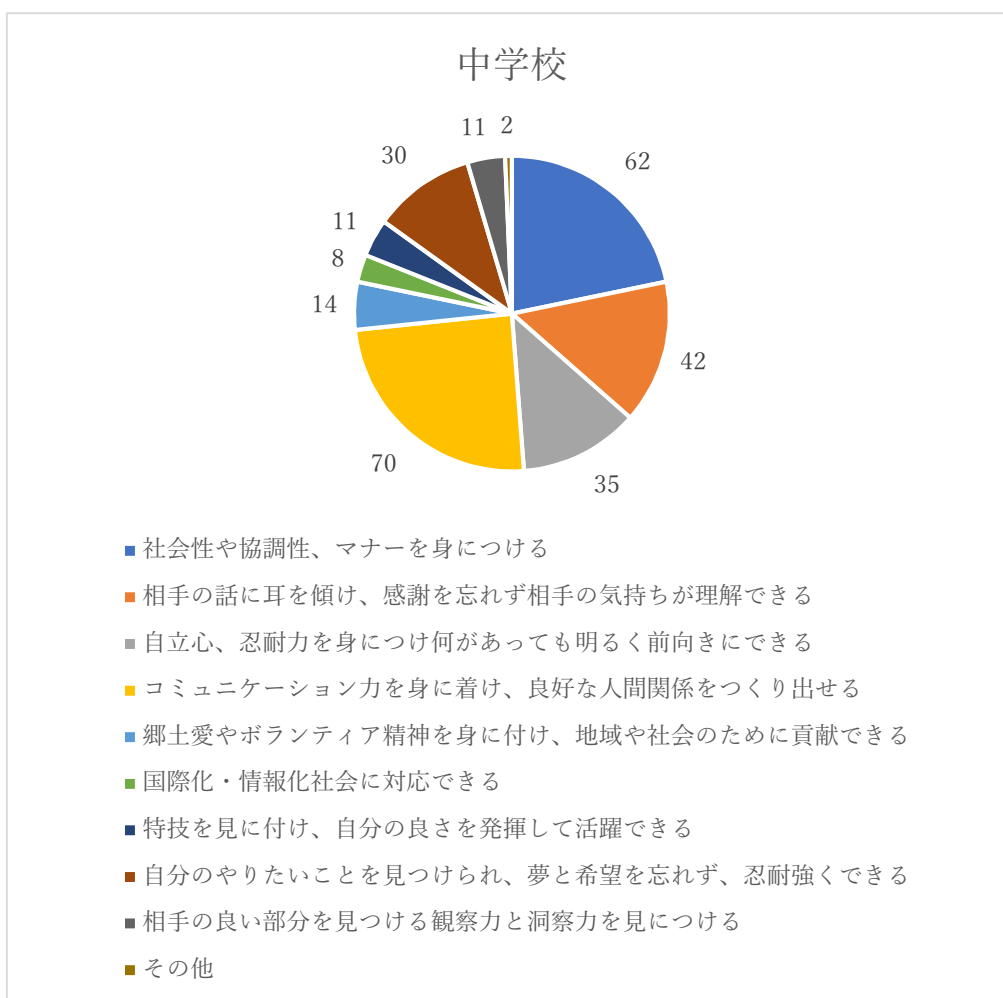
その他：分かりません。（かんがえるべきことがおおすぎて）
 一つではなく、多くのことに配慮する必要がある。
 一つではなく、多くのことに配慮する必要がある。
 安全面と、小規模学校の子どもが馴染むことができる手だてで
 保護者同士の豊かなコミュニティづくり。
 PTA の質の向上。
 保護者が旧校区のやり方に固執せずうまく繋がれば子ども達もなかよ
 くなれる。



その他：教員の適正な人数配置

Q 1 5 学校において、将来子どもたちをどのような人に育てていくことが大切であるとするか





その他：損得感情に流されず、善悪を基本とし物事を考えられる。

「子どもは社会の宝」や「子どもは日本の未来」などと言う言葉を上滑りで終わらせず、自分たちが退職して、社会から退いても、社会は今まで通り正常に成り立つような、本当の意味で、日本の未来を動かす人材を育てているという意識で教育する。

Q 1 6 自由意見

- ・校舎は古くなっていますが、大きい学校がいいとは思えず、小さいのがたくさんある方が好きです。
- ・中学校区に小学校が3校あるのが適切だと思います。最低でも2校、
- ・中学校も統合していくことが必要だ。すぐに統合は難しいだろうから、部活動に関してだけでも三豊市内で3地区程度に統合してチームを作り活動したらどうだろうか。団体競技の場合練習効率が上がるし、活気も出て、教員の働き方改革にもつながると思う。
- ・今後増えていくであろう、外国籍児童生徒に対する、カリキュラムや職員配置などの対策にも力を入れていただきたい。
- ・以前と異なり、特別支援を要する生徒が増えている。さらに、児童生徒の問題行動は多種多様化し、教員だけでは対応不可能な事例が増えている。他の自

治体のように5歳児検診からの早期発見・早期対応がうまくいっていない生徒の場合、二次障害を起こして対人恐怖や自傷行為等の問題行動が増え、中学校で対応に苦慮している。早期から心理的専門家が適切に関わり、家族の子供理解を促進し、拗らせない対応が早期に望まれる。

- ・小学校が多すぎる。まず曾保小学校から早急に統合する

- ・現在ある学校の地域性や特色を生かして、統廃合をせずに存続させて欲しい。学級編成の人数を25人学級編制を実現することで少子化に対応することで、教師の目がゆきとどいた教育が更に目指せると考えます。これまでの香川県内での、学校統廃合について考えると、いつも当事者に相談もなく、トップダウンであったり、報道機関からの記事で知ったりなど住民置き去りのやり方が多い。改善して欲しい。

- ・三豊市はICT、AI等を活用した地域をめざしているようにみえます。SDGsも国際化も、でしょうか。学校現場でも同じ方向を目指すには、人手不足です。教職員の人数がこのままなのであれば時間不足です。様々なことを他に先駆けて実施することに反対ではありませんが、現場が追い詰められていることは認識されていると思います。また、教員の人数と授業時間は限られていますので、例えばじっくり時間をかけて読んだり書いたり調べたりすることや、基本的なことにできるまで取り組む時間、行事や特別活動を楽しむ時間は削られています。何かを削らずに新しいことを入れるほどの余裕はありません。新しいことに対する準備にも時間がかかりますから、結局は「新しいことができる人」「理解がはやい人」「病気にならない人」「我慢強い人」の仕事量がどんどん増えています。現在の状況のままで、良いと思われるものを何もかも取り入れるのには限界があるのではないのでしょうか。めざすものが多すぎて、どこに向かって進めばいいのかよくわかりません。

- ・決めたロードマップは、特別なことが無い限り実行する。例外があれば、理由を公表しなければ、不公平感は強く残ると考える。

- ・初めに統合ありきではなく、地域の保護者の願いや将来への見通しを踏まえて、合意形成をしていくことが重要だと思う。それが決まるころには、意見が熟成し、統合の必要に迫られている時期になっていると考えられるから、並行して校舎建設の土地の確保などをしていくことが必要になると思う。

- ・新設校と老朽化の進んでいる学校との間に、設備等に格差があるのが現状です。本校でも体育センターの老朽化が進み、非常口の開閉に支障をきたすなどの問題があります。各校の要望をもとに改善を講じるか、適正配置に基づいた見通しを示していただきたい。

- ・生徒のモデルになるべき、正義感のある、使命感のある、思いやりのある男性教員を配置してほしい。

- ・社会の少子化という現況や予後を鑑みても、小学校の統合・吸収合併は必要であると思います。特に一学年で二桁を割り込むような児童数の学校の場合は、児童の学習や心身の発達に及ぼす影響は、良い面よりも悪い面が多いと思います。ただ、特に小学生は、「歩いて登下校」が大原則であると思っています。

す。幼稚園児は送り迎えが必要でしょうし、中学生は自転車が使えます。小学生は送り迎えも自転車通学も、現状、できません。私は、児童期に歩くことは健やかな心身づくりに欠かせないことだと考えます。スパルタ的なスポ少でのスポーツや幼いころからの偏った習い事(スポーツ系)など無理にしないでよいのではないかと思います。ですから、「バスのいない通学距離」で通える程度の統合・吸収合併ならよいと思います。ただ、1中学校区に1小学校という状況は避けた方がよいと思います。一学年に学級が複数あっても、義務教育9年間同じ集団で通すというのは、児童間の人間関係や個々の児童の立ち位置の固定化につながるような気がします。それによっていい競争(刺激)も生まれないと思っています。

- ・生徒の安全や学力に関することには積極的にお金を使ってほしい。

- ・このアンケートを見る限り、統合ありきを前提として、恣意的に作られており、統合化を唯一とする考えが見え見えである。財政的に苦しい点はあるかもしれないが、真に子どもの教育を考えるならば、様々な規模の学校があつていいはずである。小規模を始めから切り捨てるような、「適正」という名の経済的な理由からの施策については、反対である。コミュニティの存続にも関わってくるので。地域に小学校があつて、故郷に子どもたちが帰って来られるようなそんなまちづくりを行ってほしいと、強く願う。

- ・高瀬町、豊中町の小学校や曾保小学校は、なぜ統合しないのですか？特別な理由があるのでしょうか？

- ・現在学級の人数が31人だが、隣がとても近い。教室が狭く感じる。以前からテストの時は隣が丸見えな状態だった。コロナ禍ということもあり、クラスの人気はもっと少なく余裕をもって学習できるとよい。

- ・クラスの人数が10人ほどで、きめ細やかな指導ができる反面、人数が少なくてできないことも多いので、合併することについても前向きに考えていかなければならない時期がきているのではないと思う。

- ・多忙すぎる職場環境の改善を求めます。教員のなり手の質が下がり、子どもの学習のためになりません。例えば、担任と副担任がクラスに必ずいて、クラスごとに支援員が一人つく形が理想だと思います。単学級6学年だと、1学年に先生が3人、全校で12人、内6人は支援員という形です。その他に特別支援学級の先生や管理職、専門教科の先生がいたら心にゆとりをもって働くことができます。一人の教職員の負担を減らし、毎日最低2時間の空き時間を確保することで、より子どもたちのことを考えた授業に近づくと考えます。休み時間も子どもと楽しく過ごすことができ、子どもとの関係づくりにもよい影響を与えたいと思います。また、SSSを全校に導入すべきです。経験のあるSSSが丸つけをすることで、担任だけでは気づかなかった学習支援に気づくことがあり、たいへん勉強になります。教材作りの支援をしてくださることで、授業研究をする時間を十分にもつことができます。どちらの意見についても、教職員の増員が必要不可欠です。財政面で大変なことは多々あると思いますが、一意見として前向きに受け止めていただけたらと思います。

・町を越えての統合は避けてほしい。通学時間が長くなると生徒や保護者の負担が大きくなる。できれば、小中併設校で考えてほしい。

・生徒の多様性に対応するために、生徒一人あたりに係われる教員や支援員の数をできるだけ多くし、一人にかかる負担を軽減してもらえればありがたいです。生徒が生き生きと学校生活を過ごせるように、先生によるチームを編成でき、それぞれ分掌や分野で領域ごとに専門的に指導にできるような体制を確立できるように配慮していただきたい。

・生徒数が少ないのに、無理矢理学級数を増やそうとすると、教員の数が足りていないのでしんどくなっています。

・児童・生徒が多感な時期にある義務教育の時代では、それぞれの生活文化の違い等から子どもたちが心のバランスを崩していくのを見てきた。三豊市ならではの環境のもと、心を大切に子どもたちを育てていきたい。三豊市よりも先に統合を進めている東かがわ市やさぬき市の現状を鑑みて、慎重に進めてもらいたい。また、三豊市がこれから先にどのようなまちづくりを進めていくのかという部分に子どもの教育も深く関わってくると思われます。単純には進まないと思われませんが、三豊市の未来がかかっているので塾考・熟慮したものにしてほしい。

・再任用や講師が多く、教諭が少ない。副担任もつけられない状況。よって生徒管理がしにくい状況に陥る。

・小規模校では、人間関係が固定化され、そのまま6年間過ごすことになる。それによって優劣がつくと、変えることは難しくどうせ自分とは自尊心が低かったり、向上心を持てなかったりする子どもが育つ可能性がある。初等教育では、大勢の中で社会性や協調性を身につける必要があるので、早く統合を進める事が望ましいと感じる。

・学校の統合には一長一短がある。心豊かな子どもの育成という点で考えたとき、統合のデメリットを考えて、慎重な検討が必要である。

・人数は、ある程度の数が必要だが、統廃合により、地域から学校がなくなるとその地域が寂しくなる。

・教材・教具に素早い対応をしていただいて感謝しています。新しいものを率先して取り入れている印象があります。今後も、生徒にとって、そして職員にとって過ごしやすい、心地よい学校、心地よい職場をお願いしたいと思います。

三豊市の学校適正規模適正配置の考え方（素案）

1. 計画期間

- 1) 中長期的視点 令和 30 年度を見据えたもの
- 2) 計画期間 令和 4 年度～令和 13 年度までの 10 年間

2. 適正規模

1) 市における基準（理想とする姿）

- ①小学校 12～18 学級（1 学年あたり 2～3 学級）
- ②中学校 9～18 学級（1 学年あたり 3～6 学級）

2) 小学校は単学級でも複数のグループが編制できる人数を確保（下限の目安）

- ①小学校 1 学年 1 学級 各学年 20 人程度（全校児童 120 人以上）
- ②中学校 1 学年 3 学級 各学年 60 人程度（全校生徒 180 人以上）

3. 適正配置

1) 統合校の通学距離・時間

- ①小学校 おおむね 2.5km 以上はスクールバスなど通学支援策を講じ、通学時間は 1 時間以内とする
- ②中学校 おおむね 6.0km 以上はスクールバスなど通学支援策を講じ、通学時間は 1 時間以内とする

2) 再編の取り組み・枠組み

①小学校中学校共通

ア小規模校や統合予定校は小小連携、中中連携の取り組みを検討し、実施すること

※小規模校における教育課程の軽減を図るため、連携する学校の実態に応じて、年に数回、合同で授業や行事を行う等の取り組み

イ統合する場合の学校については、児童生徒数や児童生徒の環境に配慮した施設とし、既存の施設を利用して改築するか増築するか又は新築するかについては、L C C（ライフサイクルコスト）を含めた費用を算出し、比較検討して決定すること。

②小学校

ア原則旧町に 1 校とするが、中長期視点までの児童数が、適正規模学級以上の場合には旧町に 2 校とする

イ下限以下の児童数で複式学級を要する小学校は、早急に旧町内にある近隣小学校との統合を検討する

ウ複式学級を要しない下限以下の児童数の小学校は、地域の実情を踏まえ旧町

内の近隣小学校と統合を検討する

エ再編統合予定校及び小規模校は、小小連携の取り組みを検討し実施すること

※小規模校における教育課程の軽減を図るため、連携する学校の実態に応じて、年に数回、合同で授業や行事を行う等の取り組み

③中学校

ア三豊市内で2校とし、再編を含めた小学校単位での統合とする

イ具体的な枠組みは表1のとおり

表1

地域別	再編地域
北地域	詫間町全域、仁尾町全域、三野町全域、高瀬町の一部(上高瀬小学校区、比地小学校区)
南地域	豊中町全域、高瀬町の一部(勝間小学校区、麻小学校区、二ノ宮小学校区)、財田町全域、山本町全域(組合立の協議による)

ウ学校組合立については、三豊市と観音寺市の生徒数をふまえ中長期視点内に、生徒の教育を第1に考え、三豊市立中学校とするか組合立のままとするか財政面も含め協議検討すること

エ再編統合予定校及び小規模校は、統合までに中中連携の取り組みを検討し実施すること

4. 計画の進め方

- 1) 複式学級の解消を最優先課題とし、複式学級のある学校を対象に再編を進める
- 2) 下限数以下の小学校については、統合に向けて再編を進める
- 3) 下限数以下の中学校については、表1の枠組は令和15年以降を想定していることから、令和15年までは近隣町の受け入れ可能な中学校を対象として統合に向けて再編を進める
- 4) 小規模校や統合予定校など、再編まで地理的要因などにより(再編を進めることが困難な場合も含む)連携が困難な場合は、多様な考えに触れるための対応策として遠隔授業やオンライン授業等のICT技術を導入し、近隣学校との連携教育を視野に入れて検討実施すること

5. 基本計画の見直し

教育委員会が策定した基本計画については、10年ごとに教育委員会において見直しを実施することとするが、予測した児童生徒数が大幅に増減した場合や、社会情勢、地域情勢の変化によっては、適正規模適正配置について第三者の意見を聞きながら再度検討すること

将来推計からの児童・学級数(再編整備計画に基づく小学校別児童数学級数)

高瀬1(上高瀬・比地)・高瀬2(勝間・二ノ宮・麻)

地域		R8	R10	R13	R15	R18	R20	R23	R25	R28	R30
高瀬	高瀬1	347	320	305	309	291	281	267	257	241	233
	学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
	高瀬2	311	278	260	271	256	247	235	227	213	204
	学級数	12	11	11	12	12	12	12	12	9	7
	児童計	658	598	565	580	547	528	502	484	454	437
山本	学級計	24	23	23	24	24	24	24	24	21	19
	山本	235	205	182	199	189	183	174	167	157	150
三野	学級数	9	7	6	6	6	6	6	6	6	6
	三野	418	387	374	369	349	337	319	307	290	279
豊中	学級数	15	14	12	12	12	12	12	12	12	12
	豊中	549	513	495	492	463	447	426	411	385	371
詫間	学級数	19	18	18	18	18	18	16	14	12	12
	詫間	428	378	360	370	348	337	320	308	289	279
仁尾	学級数	15	13	12	12	12	12	12	12	12	12
	仁尾	148	141	136	136	128	124	118	114	108	105
財田	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	財田	113	99	89	97	92	88	84	81	76	74
財田	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	財田	113	99	89	97	92	88	84	81	76	74
児童合計		2,549	2,321	2,201	2,243	2,116	2,044	1,943	1,872	1,759	1,695
学級合計		94	87	83	84	84	84	82	80	75	73

将来推計からの児童・学級数(現小学校別)※豊中は1校で算出

地域		R8	R10	R13	R15	R18	R20	R23	R25	R28	R30
高瀬	上高瀬	205	193	197	189	178	172	164	158	148	143
	学級数	8	7	7	6	6	6	6	6	6	6
	勝間	170	156	147	151	142	137	131	126	118	113
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	比地	142	127	108	120	113	109	103	99	93	90
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	二ノ宮	60	53	47	50	47	45	42	42	39	37
	学級数	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4
	麻	81	69	66	70	67	65	62	59	56	54
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	児童計	658	598	565	580	547	528	502	484	454	437
	学級計	31	30	30	29	28	28	28	28	28	28
山本	山本	235	205	182	199	189	183	174	167	157	150
	学級数	9	7	6	6	6	6	6	6	6	6
	児童計	235	205	182	199	189	183	174	167	157	150
	学級計	9	7	6	6	6	6	6	6	6	6
三野	大見	132	124	121	115	109	105	99	95	90	87
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	下高瀬	157	152	147	145	137	133	126	121	114	110
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	吉津	129	111	106	109	103	99	94	91	86	82
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	児童計	418	387	374	369	349	337	319	307	290	279
豊中	学級計	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
	豊中(仮)	549	513	495	492	463	447	426	411	385	371
	学級数	19	18	18	18	18	18	16	14	12	12
	桑山	102	103	101	94	88	86	82	79	74	71
	比地大	106	92	90	89	84	81	77	75	70	68
	笠田	104	98	96	97	92	88	84	81	76	74
	上高野	80	57	52	61	57	55	52	50	47	45
	本山	157	163	156	151	142	137	131	126	118	113
	児童計	549	513	495	492	463	447	426	411	385	371
	学級計	19	18	18	18	18	18	16	14	12	12
詫間	松崎	105	104	103	100	94	92	87	83	78	75
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	詫間	323	274	257	270	254	245	233	225	211	204
	学級数	13	12	12	12	12	12	12	12	9	7
	児童計	428	378	360	370	348	337	320	308	289	279
仁尾	学級計	19	18	18	18	18	18	18	18	15	13
	仁尾	138	136	131	130	122	118	112	108	102	99
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	萱保	10	5	5	6	6	6	6	6	6	6
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	児童計	148	141	136	136	128	124	118	114	108	105
財田	学級計	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
	財田	113	99	89	97	92	88	84	81	76	74
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	児童計	113	99	89	97	92	88	84	81	76	74
財田	学級計	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	財田	113	99	89	97	92	88	84	81	76	74
児童合計		2,549	2,321	2,201	2,243	2,116	2,044	1,943	1,872	1,759	1,695
学級合計		111	106	105	104	103	103	101	99	94	92

1. 再編整備計画に基づく小学校別学校規模

R15 現小学校 (豊中は統合後)	普通 学級数	学校規模 (文部省基準)	普通 学級数	R15 小学校 (再編整備計画に基づく)
児童数				児童数
	1	過小	1	
	2		2	
曾保 6	3		3	
	4		4	
二ノ宮 50	5		5	
吉津 109 松崎 100 財田 97 麻 70	6	小	6	財田 97 仁尾 136 山本 199
下高瀬 145 仁尾 130 比地 120 大見 115				
山本 199 上高瀬 189 勝間 151				
	7		7	
	8		8	
	9		9	
	10		10	
	11		11	
詫間 270	12		12	高瀬2 271 高瀬1 309 三野 369 詫間 370
	13		13	
	14		14	
	15		15	
	16		16	
	17		17	
豊中 492	18	適正	18	豊中 492
	19 ゝ	大	19 ゝ	
	30		30	
	31 ゝ	過大	31 ゝ	

※学級数は公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律に基づいた学級編制より

児童数は第1回資料より

高瀬1は上高瀬、比地の合計

高瀬2は勝間、二ノ宮、麻の合計

将来推計からの地区中学校別生徒数・学級数
高瀬1(上高瀬・比地)高瀬2(勝間・二ノ宮・麻)

地域	R8	R10	R13	R15	R18	R20	R23	R25	R28	R30
高瀬	高瀬	376	364	326	274	299	286	271	262	249
	学級数	12	12	10	9	9	9	9	9	9
	高瀬1	197	188	171	153	159	153	144	139	133
	高瀬2	179	176	155	121	140	133	127	123	116
山本	三山(山本)	145	138	123	82	102	98	94	91	86
	学級数	6	6	4	3	3	3	3	3	3
	三野津	245	225	199	195	190	182	173	167	158
	学級数	8	7	8	7	6	6	6	6	6
豊中	豊中	290	294	265	236	254	242	229	221	213
	学級数	10	10	9	9	9	9	9	9	8
	詫間	311	272	203	168	191	182	173	166	159
	学級数	10	9	7	6	6	6	6	6	6
仁尾	仁尾	122	93	73	62	70	67	64	61	59
	学級数	6	4	3	3	3	3	3	3	3
	和光	72	71	59	45	50	48	45	44	42
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3
財田	財田	1561	1457	1248	1062	1156	1105	1049	966	925
	学級数	55	51	44	40	39	39	39	39	38

35人学級

★将来推計の生徒数から見た三豊市内学校数編成3校(仮)※再編整備計画からの小学校区単位

地域	R8	R10	R13	R15	R18	R20	R23	R25	R28	R30
高瀬1 豊中	詫間	311	272	203	168	191	182	173	166	159
	仁尾	122	93	73	62	70	67	64	61	59
	三野	245	225	199	195	190	182	173	167	158
	生徒数	678	590	475	425	451	431	410	394	376
	学級数	21	19	15	14	15	15	12	12	12
	高瀬1	197	188	171	153	159	153	144	139	133
高瀬2 山本 財田	豊中	290	294	265	236	254	242	229	221	213
	生徒数	487	482	436	389	413	395	373	360	346
	学級数	15	15	14	12	13	12	12	12	12
	高瀬2	179	176	155	121	140	133	127	123	116
	三山(山本)	145	138	123	82	102	98	94	91	86
	和光	72	71	59	45	50	48	45	44	42
高瀬2 山本 財田	生徒数	396	385	337	248	292	279	266	258	244
	学級数	12	12	10	8	9	9	9	9	9
	生徒計	1561	1457	1248	1062	1156	1105	1049	966	925
	学級計	48	46	39	34	37	36	33	33	33
	高瀬2	179	176	155	121	140	133	127	123	116
	財田	72	71	59	45	50	48	45	44	42
高瀬2 山本 財田 (山本除外)	生徒数	251	247	214	166	190	181	172	167	158
	学級数	9	9	7	6	6	6	6	6	6

30人学級の場合

★将来推計の生徒数から見た三豊市内学校数編成3校(仮)※再編整備計画からの小学校区単位

地域	R8	R10	R13	R15	R18	R20	R23	R25	R28	R30
高瀬1 豊中	詫間	311	272	203	168	191	182	173	166	159
	仁尾	122	93	73	62	70	67	64	61	59
	三野	245	225	199	195	190	182	173	167	158
	生徒数	678	590	475	425	451	431	410	394	376
	学級数	24	21	17	15	16	15	15	15	14
	高瀬1	197	188	171	153	159	153	144	139	133
高瀬2 山本 財田	豊中	290	294	265	236	254	242	229	221	213
	生徒数	487	482	436	389	413	395	373	360	346
	学級数	18	18	16	15	15	15	12	13	12
	高瀬2	179	176	155	121	140	133	127	123	116
	三山(山本)	145	138	123	82	102	98	94	91	86
	和光	72	71	59	45	50	48	45	44	42
高瀬2 山本 財田	生徒数	396	385	337	248	292	279	266	258	244
	学級数	15	15	13	10	12	12	9	9	9
	生徒計	1561	1457	1248	1062	1156	1105	1049	966	925
	学級計	57	54	46	40	43	42	39	37	36
	高瀬2	179	176	155	121	140	133	127	123	116
	財田	72	71	59	45	50	48	45	44	42
高瀬2 山本 財田 (山本除外)	生徒数	251	247	166	166	181	181	167	167	153
	学級数	9	9	7	7	8	8	6	6	6

将来推計からの地区中学校別生徒数・学級数

35人学級

★将来推計の生徒数から見た三豊市内学校数編成2校(仮)※再編整備計画からの小学校区単位

地域	R8	R10	R13	R15	R18	R20	R23	R25	R28	R30
高瀬1 豊中	詫間	311	272	203	168	191	182	173	166	159
	仁尾	122	93	73	62	70	67	64	61	59
	三野	245	225	199	195	190	182	173	167	158
	高瀬1	197	188	171	153	159	153	133	133	127
	生徒数	875	778	646	578	610	584	554	533	509
	学級数	27	24	20	17	18	18	18	18	15
高瀬2 山本 財田	高瀬2	179	176	155	121	140	133	127	123	116
	豊中	290	294	265	236	254	242	229	221	213
	三山(山本)	145	138	123	82	102	98	94	91	86
	和光	72	71	59	45	50	48	45	44	42
	生徒数	686	679	602	484	546	521	495	479	457
	学級数	21	21	19	16	18	16	15	15	15
高瀬2 山本 財田 (山本除外)	生徒計	1561	1457	1248	1062	1156	1105	1049	966	925
	学級計	48	45	39	33	36	34	33	33	30
	高瀬2	179	176	155	121	133	121	123	123	113
	豊中	290	294	265	236	242	242	221	221	202
	和光	72	71	59	45	48	48	44	44	40
	財田	541	541	479	402	423	388	355	355	355
高瀬2 山本 財田 (山本除外)	生徒数	541	541	479	402	423	388	355	355	355
	学級数	17	17	15	13	14	14	12	12	12

30人学級

★将来推計の生徒数から見た三豊市内学校数編成2校(仮)※再編整備計画からの小学校区単位

地域	R8	R10	R13	R15	R18	R20	R23	R25	R28	R30
高瀬1 豊中	詫間	311	272	168	182	182	166	166	152	152
	仁尾	122	93	62	67	67	61	61	56	56
	三野	245	225	195	182	182	167	167	152	152
	高瀬1	197	188	153	153	153	139	139	127	127
	生徒数	875	778	646	578	610	584	533	509	487
	学級数	30	27	23	20	21	21	19	18	18
高瀬2 山本 財田	高瀬2	179	176	121	133	133	123	123	113	113
	豊中	290	294	236	242	242	221	221	202	202
	三山(山本)	145	138	82	98	98	91	91	83	83
	和光	72	71	45	48	48	44	44	40	40
	生徒数	686	679	602	484	546	521	479	457	438
	学級数	24	24	21	18	20	18	18	17	15
高瀬2 山本 財田 (山本除外)	生徒計	1561	1457	1248	1062	1156	1105	1049	966	925
	学級計	54	51	44	38	41	39	37	35	33
	高瀬2	179	176	121	121	133	123	123	113	113
	豊中	290	294	236	236	242	242	221	202	202
	財田	72	71	45	45	48	44	44	40	40
	生徒数	541	541	479	402	423	388	355	355	355
高瀬2 山本 財田 (山本除外)	生徒数	541	541	479	402	423	388	355	355	355
	学級数	19	19	17	15	15	15	15	13	13

2. 中学校別学校規模分布図(市内2校の場合)

R15 現中学校			普通 学級数	学校規模 (文部省基準)	普通 学級数	R15 中学校 (2校の場合)
生徒数						生徒数
			1	過 小	1	
			2		2	
三中	仁尾	和光	3		3	
82	62	45	4		4	
			5		5	
			6	小	6	
詫間 168			7		7	
三野津 195			8		8	
			9		9	
			10		10	
			11		11	
			12	適 正	12	
			13		13	
			14		14	
			15		15	
			16		16	高瀬2、豊中、三中(山本)、和光 484
			17	17	詫間、仁尾、三野津、高瀬1 578	
			18		18	
			19 30	大	19 30	
			31 3		過 大	31 3

※学級数は公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律に
 基づいた学級編制より
 生徒数は第1回資料より
 三中は山本地区の生徒数のみで算出
 高瀬1は上高瀬、比地の合計
 高瀬2は勝間、二ノ宮、麻の合計

三豊市立学校施設の状況など

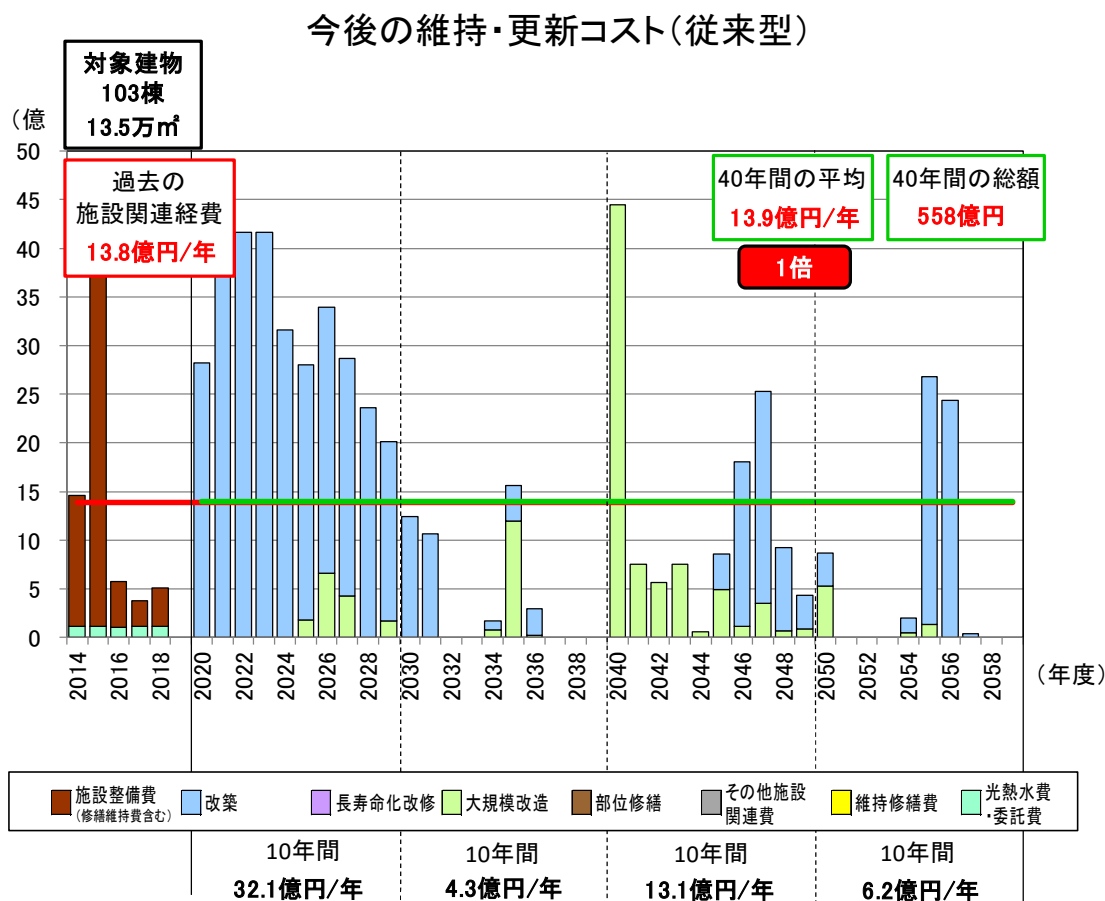
今後の維持・更新コスト（従来型）

全ての建物を現状規模のまま、大規模改修及び改築を行った場合、将来必要となる維持・更新費用は今後 40 年間で 558 億円、年平均で 13.9 億円となります。

下図のグラフの青色部分は改築に係る費用を示しており、2019 年度時点で既に改築時期が過ぎている場合は、10 年以内に改築を実施する推計となっているため、2020 年度から 2029 年度の 10 か年では年平均で 32.1 億円という試算結果となっています。

直近の 5 か年の施設関連経費の平均の費用を赤線で示しており、比較すると、今後 40 年間の推計の年平均が、直近 5 か年度平均の金額を上回るという推計結果となっています。2015 年度に山本小学校と財田小学校の 2 つの学校を新設したため、直近の 5 か年の施設関連経費の平均を大きく押し上げていることにも留意する必要があります。

今後、財政状況はさらに厳しくなることが予測され、現状のままの施設の規模を維持することは、困難であると考えられます。



コスト試算条件（従来型）

改築		大規模改造	
更新周期	50 年周期	実施年数	20 年周期
改築単価	330,000 円/㎡	単価	改築単価の 25%
工事期間	2 年	工事期間	1 年
実施年数より古い建物の改修を 10 年以内に実施			

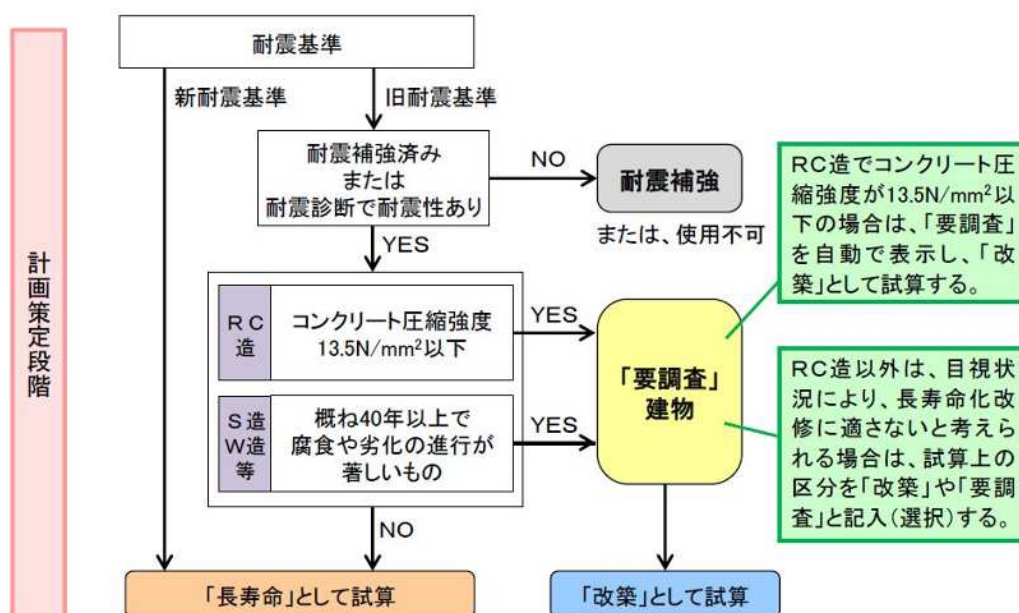
学校施設の老朽化状況の実態

（１）構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

<構造躯体の健全性>

すでに実施されている耐震診断報告書等を基に、長寿命化改修に適さない可能性のある建物を簡易に選別しています。下図は、長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）が示す長寿命化の判定フローです。

長寿命化の判定フロー



上記のフローにあるように、新耐震基準であれば、計画策定時は長寿命化として試算します。

また、旧耐震基準であっても、耐震診断報告書に基づき、コンクリート圧縮強度が 13.5N/mm² を上回る建物も長寿命化として試算しますが、13.5N/mm² 以下の場合は改築として試算します。

鉄骨造、木造等の場合は、旧耐震基準の建物のうち、建築後 40 年以上で腐食や劣化の著しいものは、改築として試算します。

なお、工事実施段階においては、耐力度調査に準じた躯体の詳細な調査を行い、個別建物ごとに長寿命化改修の可否を判断します。

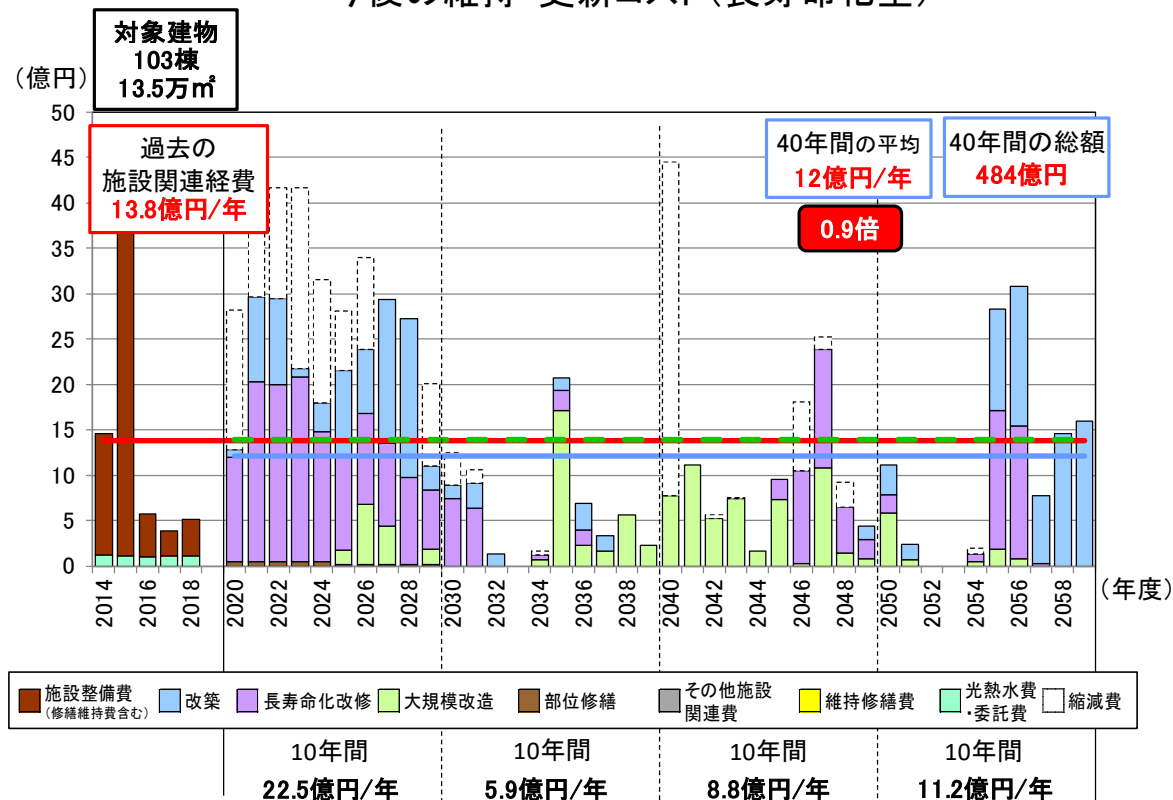
次頁に、構造躯体の健全性の確認結果を一覧で示しています。

(2) 今後の維持・更新コストの把握（長寿命化）

「構造躯体の健全性の確認結果一覧」の結果をもとに、従来の改築中心ではなく、長寿命化を図った場合の維持・更新コストを算出しています。試算したところ、40 年間の維持・更新コストは 484 億円となり、従来型の場合より約 74 億円の削減が見込まれるという結果となりました。また、今後 40 年間の推計の年平均が、直近 5 か年度平均の金額を下回るという推計結果となりました。

今後、予防保全の考え方を取り入れた長寿命化を図っていくこととします。

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)



コスト試算条件（長寿命化型）

改築		長寿命化改修		大規模改造	
更新周期	80 年	改修周期	40 年	改修周期	20 年周期
改築単価	330,000 円 / m ²	単価	改 築 単 価 の 60%	単価	改 築 単 価 の 25%
工事期間	1 年	工事期間	1 年	工事期間	1 年
実施年数より古い建物の改築を 10 年以内に実施		実施年数より古い建物の改築を 10 年以内に実施		改築、長寿命化改修の前後 10 年間に重なる場合は実施しない	
部位修繕					
D 評価	今後 5 年以内に部位修繕を実施				
C 評価	今後 10 年以内に部位修繕を実施 (改築・長寿命化改修・大規模改造を今後 10 年以内に実施する場合を除く)				

目標使用年数、改修周期の設定

・今後新規に建設するものに関しては、以下を目標使用年数として設定するものとします。

目標 使用年数	大規模改造 1 回目 (予防保全的な改修)	長寿命化 改修	大規模改造 2 回目 (予防保全的な改修)
80 年	20 年	40 年	60 年

改修等の整備水準

改修の実施に当たっては、単に数十年前の建築時の状態に戻すのではなく、建物の耐久性を高めるとともに、省エネ化や多様な学習形態による活動が可能となる環境の提供など現代の社会的に要請に応じるための改修を行うものとします。今後 30 年間のうちに統廃合の可能性が検討される場合には、統廃合を見据えた改修内容を検討するものとします。

- ・安全の確保 耐震性の確保、災害時避難所としての機能確保
- ・快適性の確保 勉学に集中でき、ストレスなく学校生活を送れる環境整備
- ・バリアフリー化 要支援者に配慮した環境整備
- ・長期的な人口減少動向を踏まえた施設整備

資料：三豊市学校施設長寿命化計画より抜粋

市内小学校施設一覧

								40年～		50年～		60年～		80年～	
番号	学校名	建物 区分	構造	階数	建築年月	面 積 (㎡)	棟図面 番号	築年数	令和5	令和10	令和15	令和20	令和25	令和30	
1	上高瀬小学校	校舎	R	2	S42.5	899	⑥-1, 2	53	55	60	65	70	75	80	
		校舎	R	3	S57.3	2,543	⑬	39	41	46	51	56	61	66	
		校舎	R	2	S57.3	264	⑭⑮	39	41	46	51	56	61	66	
		校舎	R	1	S57.12	450	⑯	38	40	45	50	55	60	65	
		屋体	S	1	S50.2	692	⑨	46	48	53	58	63	68	73	
2	勝間小学校	校舎	R	3	S47.3	739	⑧-1	49	51	56	61	66	71	76	
		校舎	R	3	S51.3	240	⑧-2	45	47	52	57	62	67	72	
		校舎	R	3	S53.10	1,343	⑧-3,4	42	44	49	54	59	64	69	
		校舎	R	1	H9.9	82	⑧-5	23	25	30	35	40	45	50	
		校舎	R	1	S53.10	38	⑧-6	42	44	49	54	59	64	69	
		校舎	R	2	S58.3	699	⑮	38	40	45	50	55	60	65	
		屋体	S	1	S55.2	792	⑭	41	43	48	53	58	63	68	
		校舎	R	3	S44.4	942	①-1,3	52	54	59	64	69	74	79	
3	比地小学校	校舎	R	3	S46.3	1,024	①-2	50	52	57	62	67	72	77	
		校舎	R	2	S59.1	730	⑧	37	39	44	49	54	59	64	
		校舎	R	3	S62.2	368	⑨	34	36	41	46	51	56	61	
		屋体	R	2	S57.9	1,209	⑬	38	40	45	50	55	60	65	
		4	二ノ宮小学校	校舎	R	4	S59.3	3,090	⑰	37	39	44	49	54	59
屋体	S			1	S51.3	694	⑭	45	47	52	57	62	67	72	
5	麻小学校	校舎	R	4	S56.3	3,254	⑫-1, 2	40	42	47	52	57	62	67	
		校舎	S	1	S56.3	396	⑯	40	42	47	52	57	62	67	
		屋体	S	1	S49.3	692	⑩	47	49	54	59	64	69	74	
6	山本小学校	校舎	R	2	H28.1	4,938	①-1,2	5	7	12	17	22	27	32	
		屋体	S	1	H28.1	903	②	5	7	12	17	22	27	32	
7	大見小学校	校舎	R	3	S51.2	2,710	⑪	45	47	52	57	62	67	72	
		校舎	R	2	S51.9	867	⑫	44	46	51	56	61	66	71	
		校舎	R	2	S58.9	262	⑯-1, 2	37	39	44	49	54	59	64	
		屋体	R	2	S58.1	944	⑮	38	40	45	50	55	60	65	
8	下高瀬小学校	校舎	R	3	H20.2	5,156	⑰	13	15	20	25	30	35	40	
9	吉津小学校	校舎	R	3	S56.3	3,423	⑪-1, 2 ⑫	40	42	47	52	57	62	67	
		校舎	S	1	S56.3	434	⑮	40	42	47	52	57	62	67	
		屋体	R	2	S57.2	922	⑯	39	41	46	51	56	61	66	
10	桑山小学校	校舎	R	3	S51.10	1,688	⑩-1	44	46	51	56	61	66	71	
		校舎	R	3	S53.9	246	⑩-2	42	44	49	54	59	64	69	
		屋体	R	1	H1.3	836	⑰	32	34	39	44	49	54	59	
11	比地大小学校	校舎	R	3	S53.5	1,670	⑨-1, 2	42	44	49	54	59	64	69	
		校舎	R	1	S56.12	17	⑨-3	39	41	46	51	56	61	66	
		屋体	R	1	H2.3	836	⑬	31	33	38	43	48	53	58	
12	笠田小学校	校舎	R	3	S55.5	1,874	⑩-1	40	42	47	52	57	62	67	
		校舎	R	3	S56.1	248	⑩-2	40	42	47	52	57	62	67	
		屋体	R	2	S61.2	843	⑯	35	37	42	47	52	57	62	
13	上高野小学校	校舎	R	3	S53.7	1,860	⑩	42	44	49	54	59	64	69	
		校舎	R	3	S59.3	248	⑬	37	39	44	49	54	59	64	
		屋体	R	1	S63.3	836	⑯	33	35	40	45	50	55	60	
14	本山小学校	校舎	R	3	S53.8	1,979	⑩	42	44	49	54	59	64	69	
		屋体	R	2	H3.3	925	⑮	30	32	37	42	47	52	57	
15	松崎小学校	校舎	R	3	S51.1	580	⑪-1	45	47	52	57	62	67	72	
		校舎	R	3	S51.10	199	⑪-2, 3	44	46	51	56	61	66	71	
		校舎	R	3	H4.8	2,915	⑬⑭	28	30	35	40	45	50	55	
		屋体	R	1	S49.7	560	⑩	46	48	53	58	63	68	73	
16	詫間小学校	校舎	R	3	S53.3	1,109	③-5, 7	43	45	50	55	60	65	70	
		校舎	R	3	S57.1	828	③-6, 8	39	41	46	51	56	61	66	
		校舎	R	3	H16.3	4,585	⑰	17	19	24	29	34	39	44	
		屋体	R	2	S58.2	996	⑪	38	40	45	50	55	60	65	
17	仁尾小学校	校舎	R	3	H2.7	3,213	⑬-1, 2	30	32	37	42	47	52	57	
		校舎	R	2	H2.7	2,570	②③	30	32	37	42	47	52	57	
		校舎	R	2	H2.7	413	②	30	32	37	42	47	52	57	
		屋体	R	1	H26.3	919	②⑥	7	9	14	19	24	29	34	
18	曾保小学校	校舎	R	3	S58.3	1,146	⑦	38	40	45	50	55	60	65	
		校舎	R	2	S58.3	573	⑧⑨	38	40	45	50	55	60	65	
		屋体	R	1	H3.5	587	⑫	29	31	36	41	46	51	56	
19	財田小学校	校舎	R	3	H28.2	4,704	①	5	7	12	17	22	27	32	
		屋体	R	1	H28.2	943	②	5	7	12	17	22	27	32	

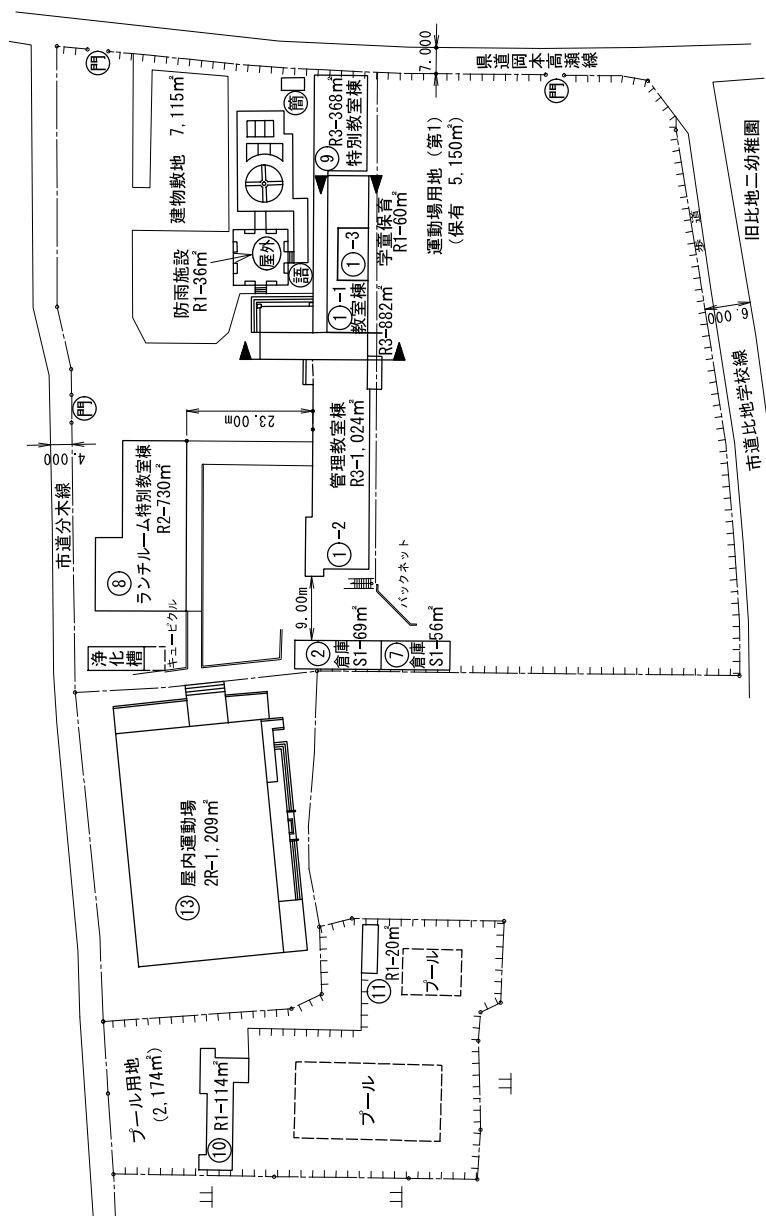
市内中学校施設一覧

番号	学校名	建物 区分	構造	階数	建築年月	面 積 (㎡)	棟図面 番号	40年～	50年～		60年～		80年～	
								築年数	令和5	令和10	令和15	令和20	令和25	令和30
1	高瀬中学校	校舎	R	3	H18.10	8,049	㉔-1	14	16	21	26	31	36	41
		校舎	S	1	H18.10	248	㉔-2	14	16	21	26	31	36	41
		屋体	R	3	H17.7	1,805	㉑	15	17	22	27	32	37	42
2	三野津中学校	校舎	R	3	S61.3	1,942	㉒	35	37	42	47	52	57	62
		校舎	R	3	S62.8	3,771	㉓㉔㉕	33	35	40	45	50	55	60
		屋体	R	2	H27.8	1,515	㉖	5	7	12	17	22	27	32
3	豊中中学校	校舎	R	3	S47.2	1,368	㉗	49	51	56	61	66	71	76
		校舎	R	3	S47.11	2,018	㉘-1, 5	48	50	55	60	65	70	75
		校舎	R	3	S48.6	728	㉙	47	49	54	59	64	69	74
		校舎	S	1	S49.11	26	㉚-2	46	48	53	58	63	68	73
		校舎	R	2	S62.4	354	㉛	34	36	41	46	51	56	61
		校舎	S	1	H6.9	9	㉜-4	26	28	33	38	43	48	53
4	詫間中学校	校舎	R	1	S61.2	275	㉝	35	37	42	47	52	57	62
		校舎	R	4	S61.2	2,679	㉞	35	37	42	47	52	57	62
		校舎	R	3	S61.2	1,223	㉟㊱	35	37	42	47	52	57	62
		校舎	R	3	S61.8	1,020	㊲	34	36	41	46	51	56	61
		校舎	R	2	S61.2	263	㊳	35	37	42	47	52	57	62
		校舎	R	2	H27.7	1,235	㊴	5	7	12	17	22	27	32
		屋体	R	2	H22.3	2,156	㊵	11	13	18	23	28	33	38
5	仁尾中学校	校舎	R	3	S55.3	1,308	㊶	41	43	48	53	58	63	68
		校舎	R	2	S55.3	769	㊷	41	43	48	53	58	63	68
		校舎	R	3	S55.7	2,227	㊸-1	40	42	47	52	57	62	67
		校舎	S	1	H4.6	5	㊸-2	28	30	35	40	45	50	55
		屋体	R	1	S58.2	1,378	㊹-1,2,3,4	38	40	45	50	55	60	65
6	和光中学校	校舎	R	2	S59.3	1,937	㊺	37	39	44	49	54	59	64
		校舎	R	3	S59.3	1,923	㊻	37	39	44	49	54	59	64
		屋体	R	2	S45.1	1,442	㊼-1, 2	51	53	58	63	68	73	78
7	三豊中学校	校舎	R	3	S51.3	1,782	㊽	45	47	52	57	62	67	72
		校舎	R	3	S52.3	1,535	㊾	44	46	51	56	61	66	71
		校舎	R	2	S52.6	2,615	㊿㊱	43	45	50	55	60	65	70
		屋体	S	2	S38.3	820	㊿	58	60	65	70	75	80	85

凡例

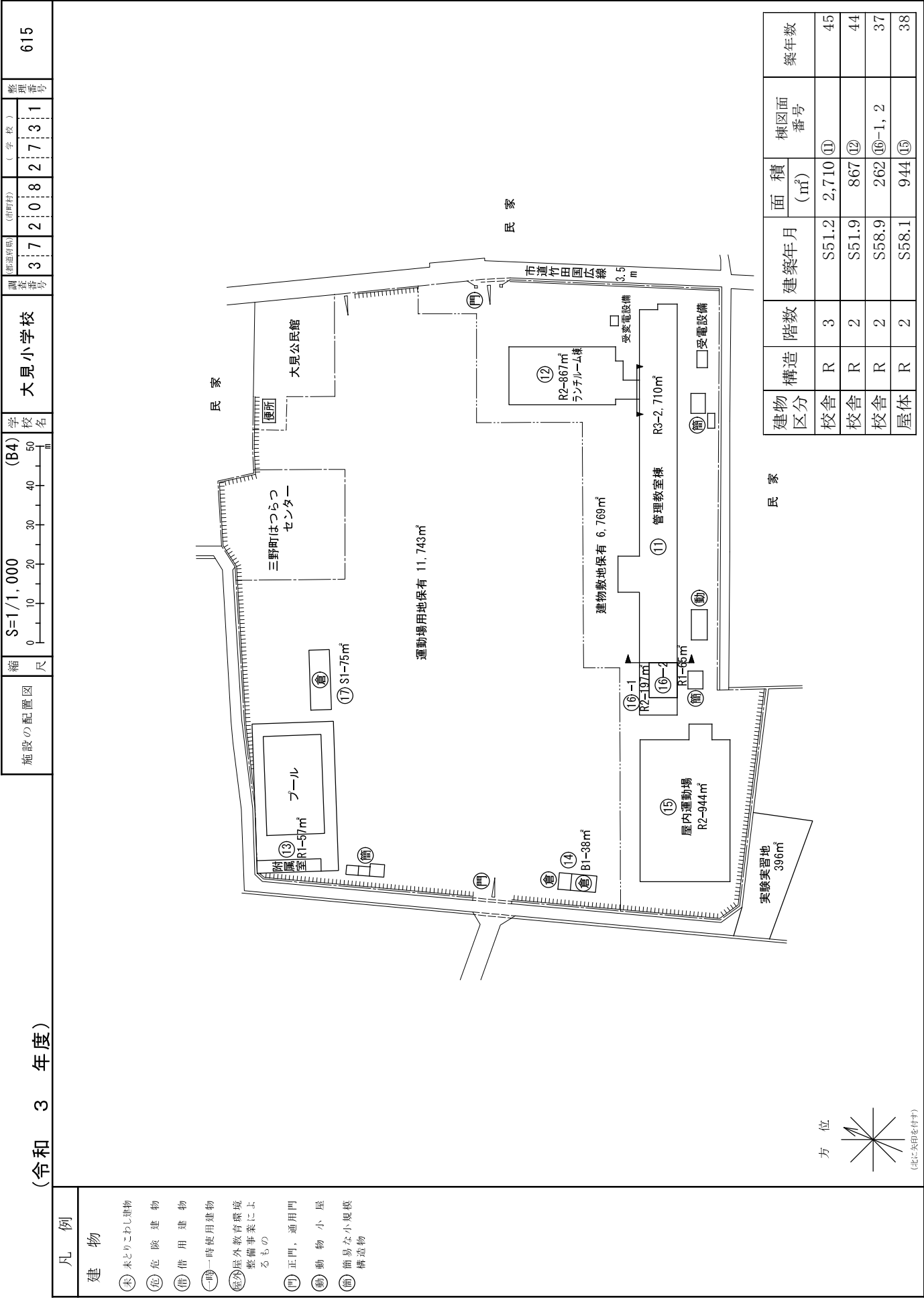
構 造	
R	鉄筋コンクリート造
S	鉄骨その他造

凡 例	建 物
⑦未	未とりこわし建物
⑧危	危険建物
⑨借	借用建物
⑩一時	一時使用建物
⑪屋外	屋外屋外教育環境整備事業によるもの
⑫語	
⑬屋外	



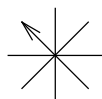
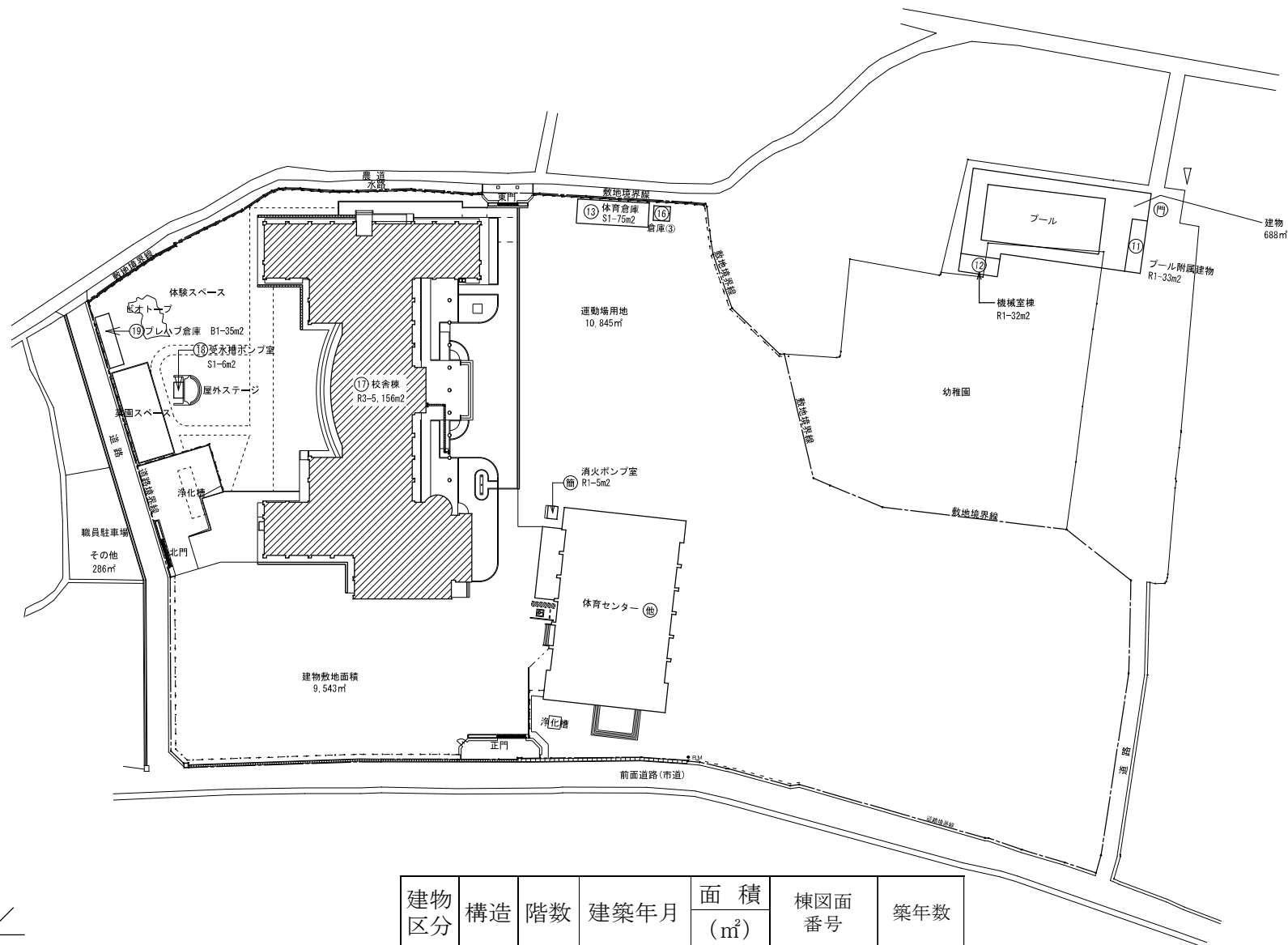
建物 区分	構造	階数	建築年月	面積	棟図面 番号	築年数
				(㎡)		
校舎	R	3	S44.4	942	①-1,3	52
校舎	R	3	S46.3	1,024	①-2	50
校舎	R	2	S59.1	730	⑧	37
校舎	R	3	S62.2	368	⑨	34
屋体	R	2	S57.9	1,209	⑬	38

33



建 物

- (未) 未とりこわし建物
 (危) 危 険 建 物
 (借) 借 用 建 物
 (一時) 一時使用建物
 (屋外) 屋外教育環境
 整備事業によるもの
 (門) 正門，通用門



(北に矢印を付す)

建物 区分	構造	階数	建築年月	面 積	棟図面 番号	築年数
				(㎡)		
校舎	R	3	H20.2	5,156	⑰	1

吉津小学校1号線

吉津幼稚園

プール

プール附属室 R1-100㎡

ランチルーム棟 ⑮ R1-434㎡

教室棟 ⑫ R3-739㎡

管理教室棟 ⑪-2 R1-65㎡ ⑪-1 R3-2,619㎡

屋内運動場 ⑯ R2-922㎡

倉庫 ⑬ S1-87㎡

W.C. ⑭ R1-18㎡

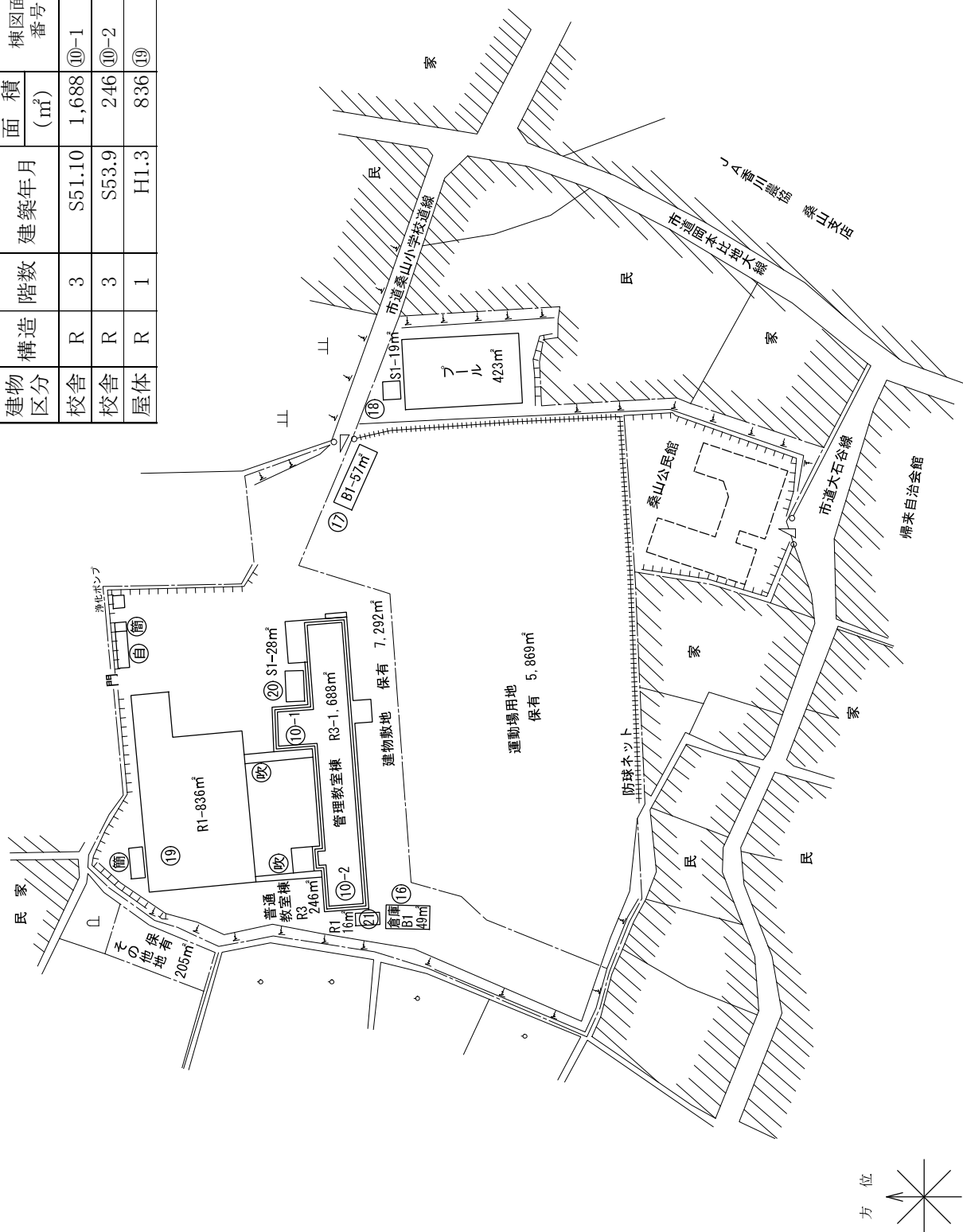
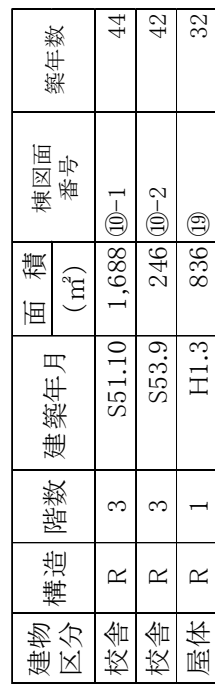
建物敷地保有 8,814㎡

運動場用地保有 17,357㎡

方位

建物区分	構造	階数	建築年月	面積	棟図面番号	築年数
				(㎡)		
校舎	R	3	S56.3	3,423	⑪-1, 2 ⑫	40
校舎	S	1	S56.3	434	⑮	40
屋体	R	2	S57.2	922	⑯	39

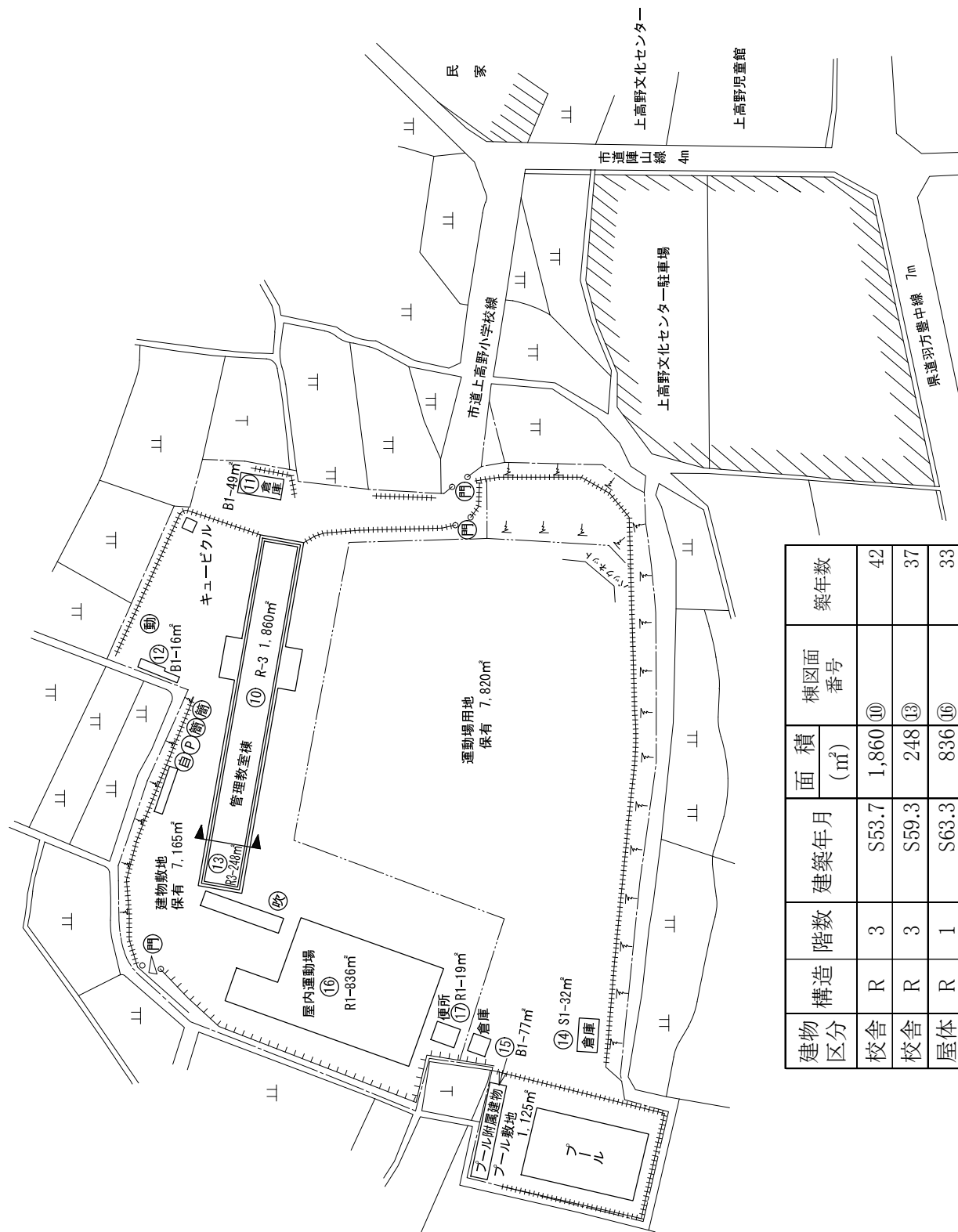
- 未とりこわし建物
危険建物
借用建物
一時一時使用建物



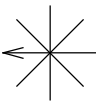
- 未 未とりこわし建物
危 危険建物
借 借用建物
一時 一時使用建物

建物以外の工作物

- 白 倉 吹 温 撲 簡
- 轉 倉 拔 温 相 簡
- 車 庫 け 廊 室 撲 小
- 置 場 下 室 場 模
- 易 造 物

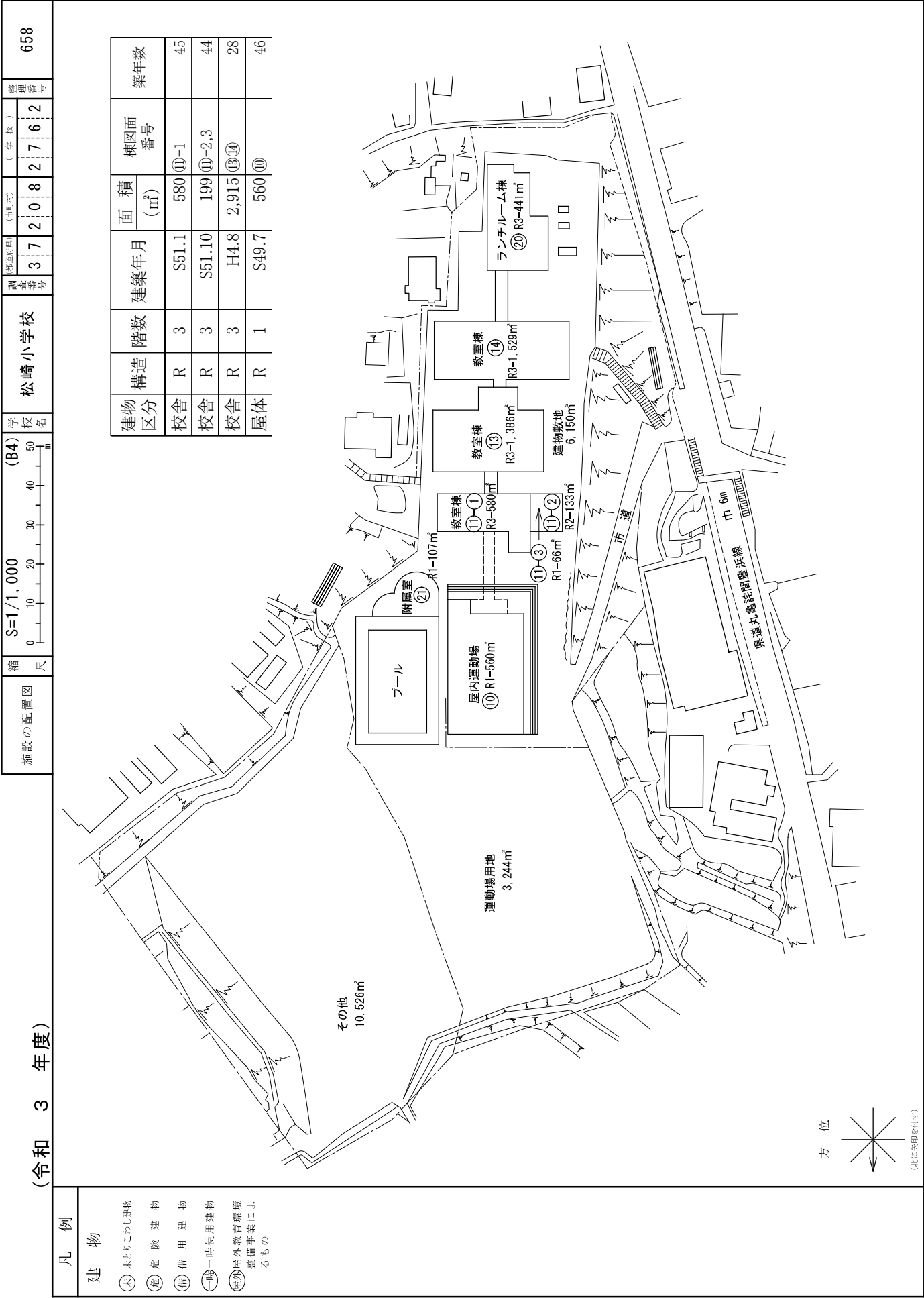


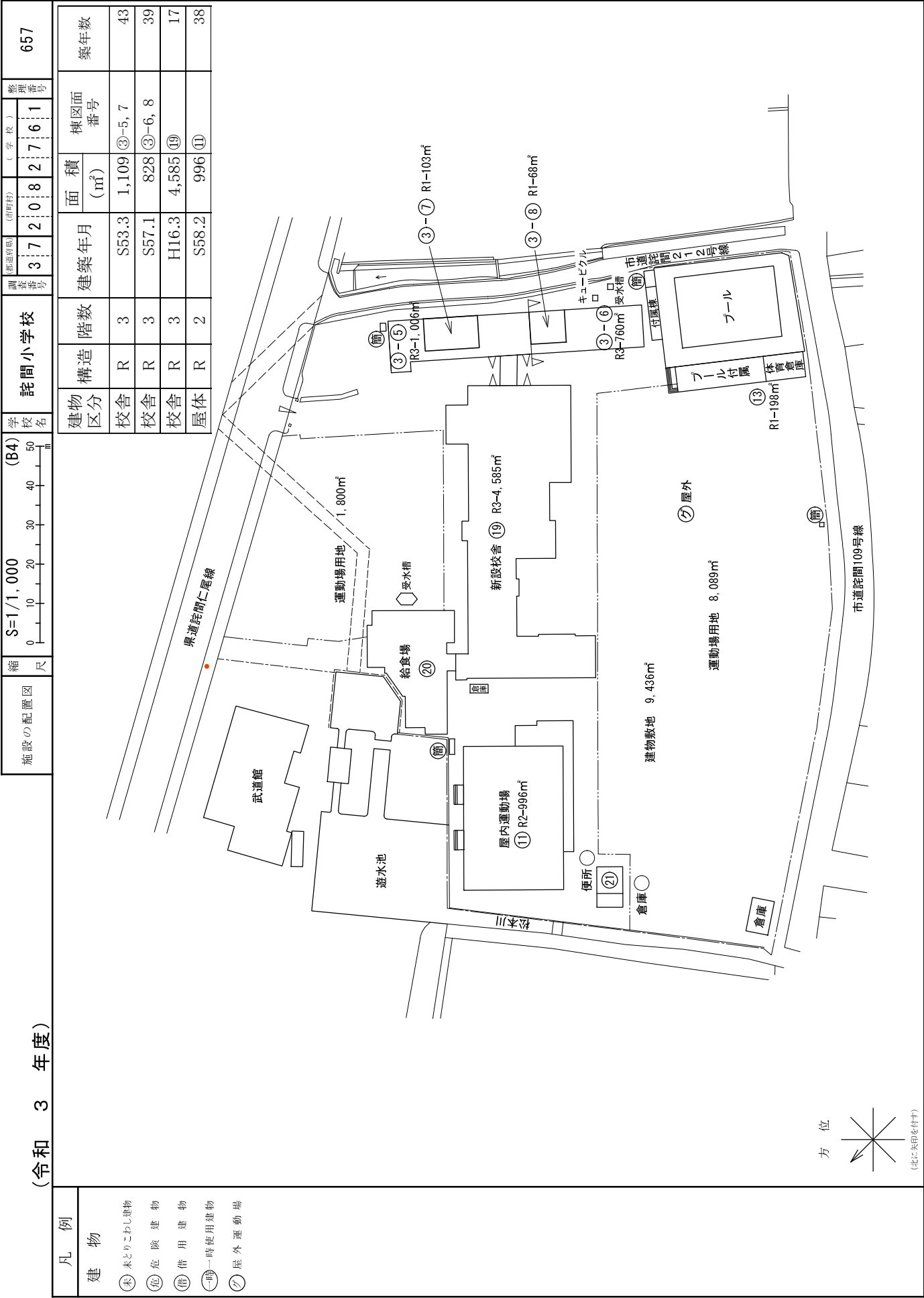
方位



(北に矢印を付す)

建物区分	構造	階数	建築年月	面積	棟図面番号	築年数
				(㎡)		
校舎	R	3	S53.7	1,860	⑩	42
校舎	R	3	S59.3	248	⑬	37
屋体	R	1	S63.3	836	⑯	33





令和3年度)

$$\underline{S=1/1,000}$$

(B4) 50 学校名

曾保小学校

調査番号

37

(市岡村)	208
-------	-----

(学校)

整理番号	2
------	---

整理番号	2-
------	----

670

凡 例

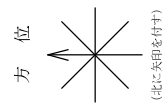
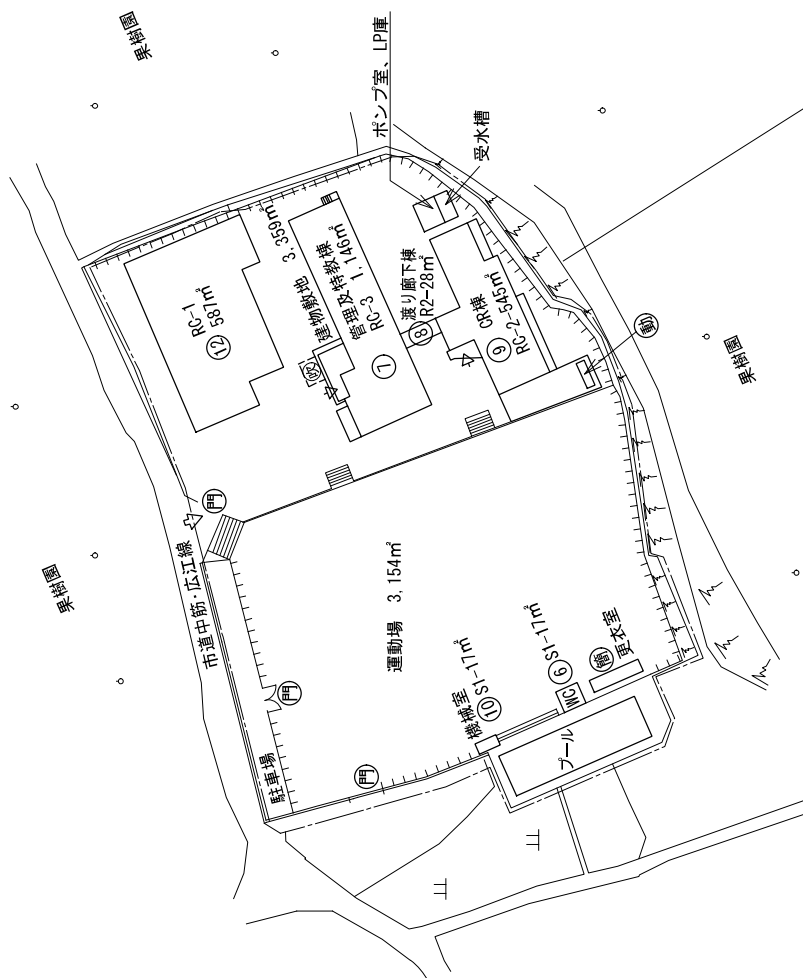
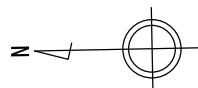
物
建

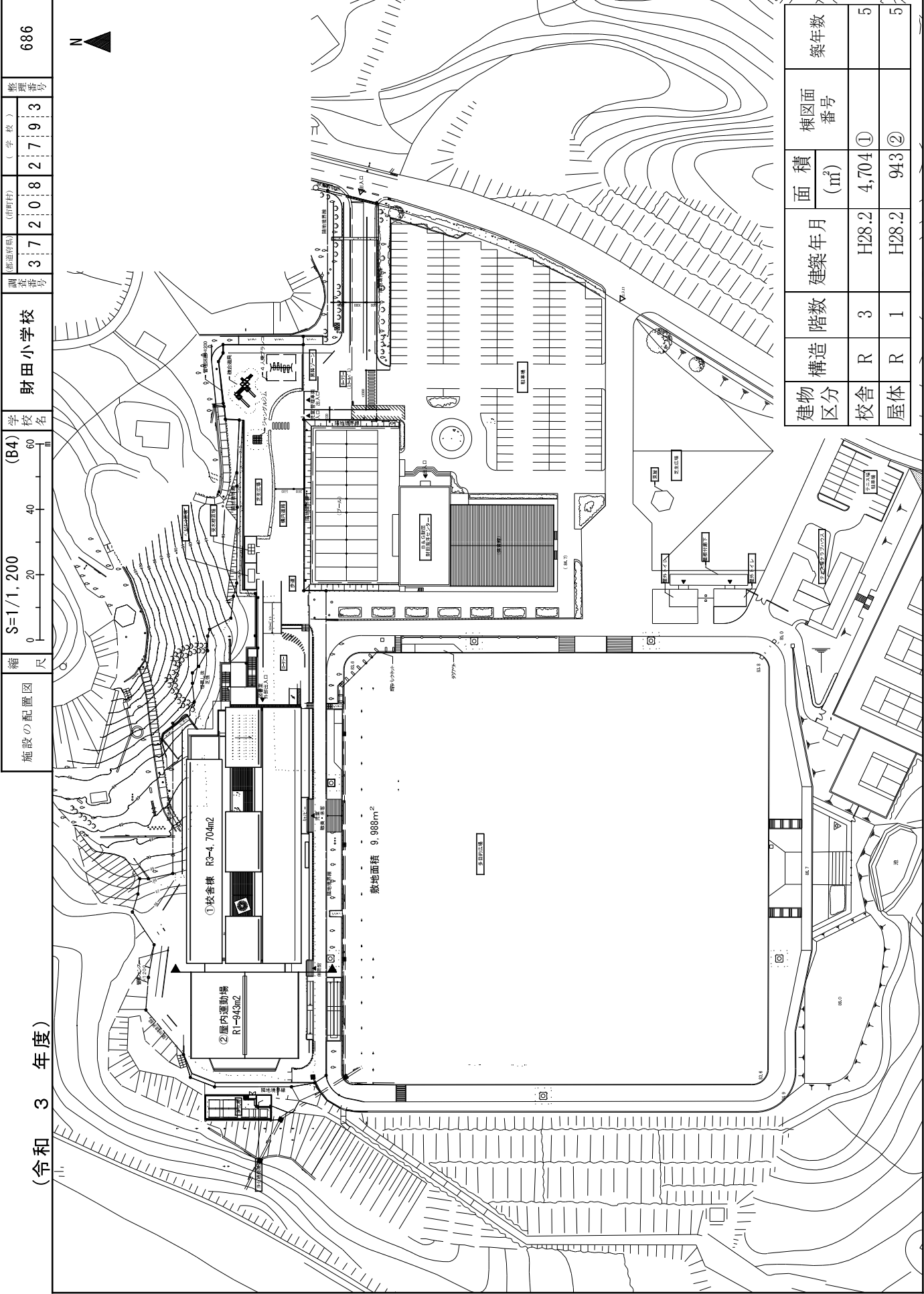
未とりこわし建物

①危險建築物

借 借 用 建 物

①一時一使用建物





建物区分	構造	階数	建築年月	面積 (^m 2)	棟図面 番号	築年数
校舎	R	3	H28.2	4,704	①	5
屋体	R	1	H28.2	943	②	5

